

第39号

2010.6

本郷学園同窓会誌

銀友



—— 総会のお知らせ ——

日 時 2010年6月19日(土) 15:00より

場 所 本郷学園会議室
(懇親会は17:00より)

同窓会のホームページアドレス

<http://本郷学園同窓会.jp> & <http://www.hongo-gd.net>

学園より教育振興資金へのご寄付のお願い

本郷学園同窓会の皆様には、日頃学園をご支援いただき心から感謝いたします。お蔭様で中学、高校とも、外部の皆様方から教育内容の充実した学校として年々、より高い評価を戴いております。

今後とも、建学以来の教育理念に則って社会有為の人材を育てるべく、学園あげて取り組む所存でございますので、ご支援の程、宜しく願い申し上げます。

学校の教育内容充実、施設整備などの用途を目的に寄付金を在校生の保護者、卒業生の皆様ほか個人、法人を問わず幅広く募集しておりますので、ご案内申し上げます。学校法人への寄付金は非課税扱いになっております。趣旨にご賛同いただきましたうえでご協力賜りますよう宜しく願い申し上げます。

(なお、本学園では従来から入学に際し保護者の皆様へのご寄付のお願いは特に致しておりません。)

●お申し込み方法

①学園事務室に寄付の申込書をご請求ください。

学校法人 本郷学園

〒170-0003 豊島区駒込4-11-1

電話 03-3917-1456

ファックス 03-3917-0007 担当 小幡(事務長)

②申込書に所定事項をご記入の上、事務所へご提出ください。

③指定の銀行振込口座にご入金ください。

④入金確認後、「振込金受領書」並びに

「特定公益増進法人であることの証明書」(写し)を郵送いたします。

●税法上の寄付金控除

私立学校への寄付金は特定公益増進法人に対する寄付金として確定申告により所得税から控除されます。

なお、寄付金控除額は控除対象団体等への年間支払い寄付金の総額(年間総所得の40%以内)から2千円を差し引いた額になります。

p2 同窓会会長あいさつ
南谷修 高校8回生 1956年卒業

p3 本郷学園理事長あいさつ
松平頼武

p4 校友を訪ねて

吉田健氏 高校20回生 1968年卒業に聞く
東京・浅草の心を伝える

——浅草寺「金龍の舞」執行委員長

p8 投稿

●「長岡出身の理事 福島甲子三」

菊入喜三郎 中学20回生(1947年卒業)

●「鹿兒島・屋久島だより」

福原信夫 高校7回生 1955年卒業

●「文部科学大臣杯 第5回 小・中学校

将棋団体戦の東日本大会に出場して」

本郷学園囲碁将棋部顧問 移川真男

高校42回生 1990年卒業

●「それが本郷クオリティ」

太田紘一 高校61回生 2009年卒業

p19 情報ボックス

p21 同期の輪
「成人の集い」ほか

p28 同窓会会則

p30 2010年度事業計画・予算

p32 2009年度事業・決算報告

p34 2009年度表彰記録

p35 2009年度定期総会報告

斎藤毅 高校13回生 1961年卒業

p36 本郷祭報告

井上栄三郎 高校10回生 1958年卒業

p37 同窓会役員一覧

p38 学園便り

p39 会費納入者一覧

p45 計報・編集後記



本郷学園同窓会
会長

南谷 修

南谷修氏が4月17日の理事会で会長に選出されました。
山内英夫前会長は顧問として引き続き同窓会に
協力していただきます。

本郷学園同窓会の会長に選出いただき、あらためて身の引きしまる思いであります。山内前会長のように、幅広い知識・人望には遠くおよびませんが、皆様の協力を得て同窓会の発展のために尽力していく所存であります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

現在の学園は、松平頼武理事長の祖父であられる松平頼壽氏によって開校（1923年・大正12年）され、87年が経ちました。

この伝統ある学園から、建学の精神「国の柱の苗木を育つ：」を歌い、教育目標を「強健・厳正・勤勉」として、多くの生徒が国の力となるべく巣立っていきました。今は、文武両道・自学自習・生活習慣の確立を、そしてスマートであり、紳士であれ、を目標として学んでいます。そしてさらに、社会で失はれつつあるものを最も大切な目標としているようです。

私達が学園を訪れると、「おはようございます!!」「今日は!!」と声をかけられます。ありがたいことですね。生徒さん達の、つね日頃から身のまわりの人々をありがたいと思う、感謝の気持ちの表われではないでしょうか。

こうした伝統のもとに多くの卒業生がおり、この同窓会誌「銀友」も39号にもなり、15,000部を発行しております。

この学園があつて、我々、卒業生の同窓会があります。先輩である我々が今、学園や生徒の皆さんに、なにか少しでも協力出来ることがある

のではないのでしょうか。皆で考え、皆で行動し、母校のために力を合わせてまいりましょう。

この数年、同窓生のために、本郷祭の時に同窓会展示室の設置やその後の同窓会サロンを開催しており、多くの皆さんのご参加をいただいております。また、還暦会、同期会の開催を後押ししたり、学園側の協力を得て、全国規模の大会などで活躍した生徒を表彰（19件・95人）したり、卒業2年目の20歳を迎えた人達に「成人の集い」（今年第3回）で一堂に会する機会を作ることも推進しております。理事長はじめ先生方も参加していただき盛大に開催することが出来ております。

学園もその時代とともに変わってきております。かつての学園とは大きく様変わりしていると思いますが、いかがでしょうか。今年の進学状況も向上しており、国公立大には約20%が合格し、有名大学への入学も多く、雑誌等でも躍進する私立高校として話題になっております。なんとも誇らしいことであります。

この様な状況ですが、同窓会も高齢化しており、成人の集いをはじめとする20歳代、さらに各年代の皆様の参加により、若返りを図って継続していく必要があります。ぜひご連絡をいただきたいと存じます。どうか皆様の力で、この同窓会を盛り立てていただきたいことを切にお願い申し上げます。新任と本年度のあいさついたします。



学校法人 本郷学園
理事長

松平 頼武

同窓会の皆様には、日頃から母校のことを思い、後輩のために、また学校のためにいろいろご指導、ご支援を頂いておりますことに、ここに厚く御礼申し上げます。

学校はお陰様で平成21年度、314人の高校卒業生を送り出すことができ、無事に終わることができました。卒業生は全員が大学を受験し、国立大、私立大ともにたいへん良い実績を残してくれました。

2月の中学、高校入試も、前年と変わらず多くの志願者を集めることができ、優秀な生徒が入学いたしました。

これは、北原校長を中心とした教諭陣の努力の成果であります。

また、昨年度は生徒の自主的な活動も活発で、校内での生徒会を中心とした自分たちの企画・運営での行事が数々行われたほか、校外での行事、催しへの参加も積極的でした。

ただ、秋の体育祭がインフルエンザ流行の為に中止せざるを得なかったことは残念でした。特に卒業生には気の毒なことをしました。

校外催しでの成績優秀者に対して、昨年度から、同窓会が特別表彰をしていただくこととなり、これが生徒達の志気を高めることにたいへんに役立つっております。

大学入試の経験談を卒業生から聴く会、日常の部活動への先輩方の参加も在校生にはたいへん嬉しい刺激となっております。

先輩方が学校に来ていただくことは、生徒に良い影響を与えます。是非皆様のご来校をお待ちいたします。

また、同窓会に主催していただいている「成人の集い」も恒例行事となり、卒業生も楽しみにしています。

本年4月からは、本校を卒業した宮沢教諭を副校長（入試広報部長を兼任）として校長を補佐することといたしました。副校長には90周年記念に向け、新校舎建設の準備にも当たってまいります。

今後とも、同窓会の皆様の変わらないご指導をよろしくお願いいたします。

吉田 健氏に聞く

浅草の心を伝える

——「金龍の舞」執行委員長——



吉田 健

高校20年生

1968年(昭和43年)卒業

ている「金龍の舞」にかける思いをうかがいました。インタビュアーは2008年(平成20年)に本郷高校を卒業した59回生の田中大貴、山本隆一朗、高畑亮君です。

——「金龍の舞」を初めて拝見しました。秋の日差しに金の鱗が輝いていました。

吉田 龍の長さ18メートル。重さは88キロあります。龍の全身は金箔張りです。8,888枚の金鱗が施されています。その金龍を江戸町火消し姿の8人の舞手が2メートルほどの棒で支え、浅草寺のご本尊である聖観世音菩薩をあらわす蓮華珠れんげしゅの動きに合わせ、勇壮華麗に舞っています。

——かなりの人数のチームになりますね。

吉田 その蓮華珠を含め1回で9人が舞手を務めます。春の「示現会しげんえ」(3月18日)と秋の「菊供養会」(10月18日)では3回舞いますので27人になります。10分間ほどの舞ですが、観音さまのお使い



勇壮華麗な「金龍の舞」

「浅草の観音さま」——と、広く親しまれている東京の金龍山浅草寺。訪れる参詣者や観光客は年間、4千万人ともいわれています。この浅草寺境内で例年、春と秋の法要の時などに奉演されるのが寺舞「金龍の舞」です。これまでイタリア、オーストリアなど国内外の各種記念行事に招かれて披露され、いまでは浅草の顔としてすっかり定着しています。この「金龍の舞」を演ずる舞手で構成する執行委員会の委員長を務める吉田健氏は、本郷高校を1968年(昭和43年)に卒業した20回生です。浅草生まれの浅草育ち。昨年10月18日、「菊供養会」での舞の奉演後、その吉田氏を訪ね、43年間たずさわっ

として、心を込めて力の限り舞いま
すので、1日に1回がベストです。
それに、お囃子を担当する楽人と
花組と呼んでいるプロの芸者衆、新
門辰五郎一門の鳶職の頭衆、隊列に
加わる浅草寺幼稚園児の松慈童
たちとその保護者でチームを編成
します。警備の警察官も含めると
200人ほどになるでしょうか。

——「金龍の舞」の由来は。

吉田 昭和33年、第2次世界大
戦で焼けた本堂が再建された記念
に、後世に伝える行事として創始・
奉納されました。長さ百尺の金鱗
の龍が舞いおりたとの伝承から浅
草寺の山号となった金龍山の「金
龍」をとって「金龍の舞」と命名し
たそうです。

——「金龍の舞」を始められた
きっかけは。

吉田 本郷高校1年生の時
です。同級生に「付き合ってくれよ」
といわれて、「金龍の舞」の事務所
に行ったところ、いきなり「いい体
をしているね。これに名前と住所、

電話番号を書いて」といわれ、どん
な会なのかわからずに入ってし
まった。柔道部にいて格闘家よう
な体格でした。中学生で初段をと
り、東京都の大会で準優勝したこ
ともあります。相撲の花籠部屋と
高砂部屋からも入門を勧められ
た。学校では、稽古で肩も擦り切れ
ていたし歯も折っていて、怖いもの
なしでした。しかし高校時代は
ケガが多くて活躍できなかった。

——大学生生活はいかがでしたか。

吉田 国学院大学に進みました
が勉強はそっちのけ。19歳で計画
し20歳で松戸にホテルを建てまし
た。親父の土地があつたので親戚中
から1,800万円の借金をして開
業しました。ですから寝ないで働
き3年間で借金はすべて返済しま
した。学生実業家です。当時、週刊
誌の「アサヒ芸能」で「学生社長登
場」なんて話題にもされた。渋谷の
大学には車で通っていました。

——「金龍の舞」をやめようとも
思ったそうですが。

吉田 同級生に付き合っただけ
で動機があつたわけでもない。そ
れでいて、やることは幟のぼりを持つてい
るだけ。さらに、大学に進んだもの
の、五月病ではないが、何もかもが
いやになる迷える19歳で、やめよ
うかななんて、考えるとはなしに
考えていました。そんなある日の午
後4時ごろ、人生の一大転機となる
電話がかかってきたのです。

——それは。

吉田 「衣裳を持って台東体育
館にすぐ来い」との連絡でした。そ
の日も家でゴロゴロしていたので、
自転車で急行すると、体育館で行
われる催しで「金龍の舞」を披露
するから龍頭を担当してもらいた
い、とのこと。行進するだけで
したが、龍頭を舞うのが夢でした
から、本当にうれしかった。

——夢の龍頭を掲げて意気揚々
と。

吉田 体育館の会場の扉が開い
て入場します。通常だと、舞のお
囃子が流れて歓声があがるのです

が、シーンとしている。『なんで』と
思いました。あとでわかりました
が、東京都の重度身体障害者の福
祉大会でした。車椅子のみなさん
は、あつちを見たりこつちを向いた
りしていました。そんななかで、付
き添いのお母さん方の視線が私た
ちに集中します。

——緊張しますね。

吉田 見渡すと、そのお母さん
方はみな同じ顔をしている。『この
子を産んだのは私だ。私が死んだ
らこの子はどうなるのか。この子の
ために自分の人生を費やしていく』
という、究極ともいえる覚悟と決
意がにじむ顔です。その顔が一斉に
われわれに向けられ、その視線が
ぞつてしまうほどの衝撃です。『と
んでもないところに来てしまった』
と、一瞬思ってしまうほどでした。

——息をのむ光景ですね。

吉田 それだけではない。さら
にすごいことが起こるのです。やさ
しい女性の声で「みなさん、金龍さ

んにさわると長生きするそうで
よ」と呼びかけると、障害者の方々
の不自由な腕が1秒、2秒と伸び
てきて、龍にさわろうとするので
す。と同時に、場内のそこかしこで
カチャカチャ、カチャカチャと音が響
き始めました。お母さんたちが、車
椅子を龍に近づけようと進めて、ぶ
つかり合う音です。

——はい。

吉田 そして、無表情だった障
害者の方々が、龍に触れると声を
あげて喜んでくれ、笑顔を見せて
くれるのです。会場がはなやかな
明るい雰囲気になりました。その
時の情景はいまでも目に焼き付
いています。『来てよかった』と、感
動を通りこした歓喜が心の底から
湧いてきて、滝のように涙が止ま
りませんでした。私は一人でも多く
のみなさんにさわってもらおう、と
20キロもある龍頭を傾け続けまし
た。15分間もなかったと思いますが
腕はパンパン。でも、折れてもいいと
思った。

——すごいですね。

吉田 同時に、さまざまな思い
が頭の中を駆け巡っていた。『俺で
もこんなに人を喜ばせることがで
きるのか。明日から違う人間にな
れる：』つて。それから3日間は
気が抜けたようでした。あまりの
シヨクで。ただ、自分だけのため
に生きるのほもうやめよう』と深
く決意したことだけは覚えていま
す。そういう気持ちが一回でも心
の底に収まると、どんなことでも
できると思いますね。

——そして現在は執行委員長に。

吉田 それ以来、「金龍の舞」に
関しては、稽古も含めて休まないよ
うにしてきました。奉演を休んだ
ことはありません。親父が舞の当
日に亡くなった時も、かえって供養
になると決めて参加しました。半
世紀をこえる歴史と伝統を築いて
きたこの舞です。さらに、浅草っ子
の心が凝縮された行事として後世
に残していきたいですね。「金龍の
舞」にたずさわる方々は、江戸文化

の良さをいつまでも残していこう、と時代に流されないうよう、時代に竿差して踏みとどまって生きていく、と思います。浅草の心が伝わる伝統文化を継承していくにはものすごいエネルギーが必要ですね。

—— 変わらない、ということは非常にむずかしいですね。

吉田 進むことよりむずかしい。風化させてはならない大切な土壌を耕し続けていくことが大切ではないでしょうか。いつも流れている川で、そこにとどまっていることは本当に大変ですが、私は、「金龍の舞」をとおして浅草の心を伝えていきたい、と思っています。

—— 明治、大正、昭和前期とつねに最先端の文化を取り入れてきたのが浅草ですね。

吉田 そのとおりです。しかし、浅草が生き残ってきた大きな要因がもうひとつあります。それは、昔から観音さまの門前町である、ということことです。観光バスのコースの三分の二には浅草が入っている。観

音さまにお参りして仲見世や周辺を散策する。世界中の観光客が集まってきました。なぜかといえば、観音様を中心に、江戸時代から繁華街として栄え、いまま江戸情緒を感じさせる浅草の風土は変わらなからだ、と思っています。テレビのディレクターが話していました。ここが東京と瞬時にわからせるには、カメラを振って雷門の提灯をパッとうつすのが一番だそうです。六本木や渋谷、新宿の通りを撮っても、みな同じ風景になってしまふ、といっていました。

—— 浅草の心を伝える「金龍の舞」を保存していくためにいま考えられていることは。

吉田 一番大事なことは舞手の育成です。それと次の執行委員長を育てること。一時は舞手が17人にまで減ってしまいました。うれしいことにいまは71人にまで増えています。「金龍の舞」の龍は人が舞うのです。龍そのものはお金を出せば作れる。しかし人は買えません。

大切なのは、「金龍の舞」創始の思いを形にあらわせる舞を舞う人間の力です。指導者の力です。時代の流れに流されないよう竿を差しても、踏ん張っていきますよ。今後ともよろしくお願いいたします。

—— 本日は大変にありがとうございます。



金龍をバックに記念撮影 左から田中大貴君、吉田健氏、山本隆一朗、高畑亮君

長岡出身の理事

福島甲子かしごう三

菊入 喜三郎

中学20回生

(1947年・昭和22年卒業)

昭和十七年四月入学当時、家は染物屋をしていた。黒染めが専門で紋付などを染めていた。黒には「引き染め」と「煮染め」があつて、上等な羽二重なぞは矢張り引き染めで、お釜でぐつぐつ煮る煮染めでは値打ちが無い。お天氣の良い日、朝早く豆汁を搦つてその汁を刷毛で、「伸子張り」した丸い紋糊を置いた白羽二重の生地を引く、乾いたらまた引いて乾かし、それが下準備でその上へヘマチン液（動物の血液を乾燥したもの）を水に溶かして煮立てたもの（）を何度も引いて黒々と仕上げ、最後に色止めとして重クロム酸カリウムの水溶液を引く、すると光沢のある立派な黒羽二重の紋付が出来上がる。あの公害問題で騒がれた恐るべき化学薬品を使つていたとは、しか

しこの方法は企業秘密に属する秘伝でもあつた。そして、それでは食べてゆけぬので「自在屋」と云つて、何でもの染物屋だつた。

色染めは、ほんの僅かの染料のポタポタで白生地をあつと云う間に朱鷺色や鶯色の艶やかな色に染め上げる遣り直しのきかぬ瞬間芸で、注文の見本帳にびつたり仕上げするには、中々に年季を要する職人芸だ。親父は勿論、私も進学のことなどは無縁の事としていた、そこに、突然のように学校問題が起こつてきたのは、時局下の統制経済と企業整備による転廃業問題だつた。防空服にモンペでは商売も成り立たないご時世。そこで、何処でもいい近い所にと云う事で決まつたのが我が母校だつた。

学校では、毎朝授業時間前に同好の友達が集まつて蹴球、しかし球は軟式の野球ボールを使つた今で云うサッカーの真似ごとのような事をしてた。広い運動場は格好の遊び場だつた。特に広大な農場は素晴らしかつた。

普通中学で農業の時間のある学校は珍しい、オリザ・サチバ、そして稲作の歴史や「挿秧」を授業で習つて「豊葦原瑞穂國の天壤無窮神話」を間接体験させた事は、田植えこそしなかつたが都会っ子にとつて、當時としては意義の有る事ではなかつたか。

「恩師三木先生を偲ぶ」を銀友二十五号の記事で読み、園芸班員として人一倍先生に可愛がられた者として、感慨も一入だつた。

漢文は、二年生から岡崎先生になつた。

その勉強で漢字に慣れ親しんだ事が、後に古文書解説に大いに役立つ事になつた。

昭和十八年六月になると閣議で、

学徒戦時勤労動員体制確立要綱が決定され、戦局の後退局面の厳しさに対応する措置が執られるようになった。

昭和十九年二月になると内務省の命令で、都会の住宅密集地の建物を強制撤去する事になり、東京が手始めに実施され、私達も勤労動員で空襲に備えて防火帯を作る為強制疎開させられた家の取り壊し作業に、江東区や小石川区などに長期間に亘り奉仕させられた。

やがて、自宅が疎開の対象になってしまい、昭和二十年三月末までに明け渡す事が決まって、急きよ新潟の親父の実家に疎開する事になった。

学校の転校手続きの書類を受け取る時は、三月四日の空襲で校庭と農場に二五〇キロ爆弾が八個投下され、地面に大きな播鉢状の穴が並んでいて、校舎の窓ガラスは殆んど壊れ、木造校舎は歪み惨憺たる状態の中であった。

引越し荷物が貨車に積込まれたのを確認し、漸く東京を出発、三月

二十四日朝上越線宮内駅に着いた時は、大豪雪の年で二階から出入りする程の積雪があり驚かされた。

県立長岡中学校に転校手続きをすると、同年生は愛知県内の軍需工場に勤労動員されていて、すんなりと転校できず、また自身も結核で病に伏せ、そのうち長岡空襲で学校を含め市街地の殆んどが焼け、敗戦のごたごたで結局卒業する事無く私の学業は終わった。

其の後小康状態を得て、昭和二十三年山の中の古志郡太田村役場に奉職、途中四年間の休職（右肋骨七本切除の胸郭成形手術を受ける）を挟んで最後は合併により出来た、山古志村役場を平成二年三月定年退職し、庄屋文書を読む為に勉強した古文書解読力を生かして長岡市立中央図書館と長岡郷土史研究会共催の古文書解読講座の講師を務め、また長岡市立郷土史料館に嘱託として九年間勤務し、資料の整理や館内展示、特に人物展示の解説パネルの作成に当たった。

河井継之助は司馬遼太郎の「峠」により一躍有名となったが、長岡では嫌われていた。

河井家の墓石が欠かれるとか、倒されるとかが度々あって、人々の恨みを買ったのも、戊辰戦争の被害、塗炭の苦しみの根源は彼の二存で長岡藩が新政府軍に刃向ったからで、戦わなければ城下・近隣鄉村合わせて三千五百戸程の家屋が焼かれる事もなかった。

徳川御三家の尾張藩、家門の福井藩、外様の加賀藩などが新政府軍となつて攻めてくる中で、徳川恩顧の義を貫き奥羽越列藩同盟に加わった事は忠義の道か。新政府軍の先鋒隊が行く先々で各藩は先ず恭順を決め、新政府軍に加わり不利益を避ける動きをした。

鬼頭甲子三（のち福島）は安政五年（二八五八）十二月、長岡藩士鬼頭平四郎（禄三十七石）の三男に生まれる。父は藩校崇徳館の教授であった。戊辰戦争に父と兄は従軍、城は落ち、母と帰つて来た兄を含め四人

の子どもは流浪の末、北に三里離れた今町（現見附市）の旧知の家まで辿り着いたが、折しも三歳以上の男児は皆殺しにされるとの風聞が頻りに伝わり、為に女装して縁者を頼って長岡から南に十五里離れた山深き妻有郷（現十日町市）中深見に逃れた。母は尼となり幼き弟妹と共に地藏堂に住み、兄弟二郎十四歳は深見村大龍院で剃髪、十一歳甲子三は船山村龍源寺で剃髪し雛僧となり修行した。

戊辰戦後、長岡藩はお取り潰しを免れたが、七万四千石から二万四千石に領地を減らされ十歳の幼君が第十三代藩主を継ぎ、藩政を補佐した者は旧家老職の山本頼母であったが実質は小林虎三郎と三島億二郎であった。

小林虎三郎は文政十一年（二八二八）八月、長岡藩士小林又兵衛（禄百石）の三男に生まれる。

父は新潟の町奉行（当時新潟は長岡藩領）を勤めた人で、天保九年佐久間象山が新潟を訪れた折、そ

の人物、学識に敬服して、将来息子が成人したら教育をお願いしたいと頼み、承諾を得ていた。嘉永三年（二八五〇）藩校の助教の時、藩命で江戸遊学を命ぜられる。

三島億二郎は文政八年（二八二五）十月、長岡藩士伊丹市左衛門（禄三十石）の二男に生まれる。藩校の教授山田錫（愛之助）が治国経済説を唱える許で、億二郎の兄政由が桶宗と云う少年組をつくり、河井継之助・小林虎三郎と共に研鑽した。天保十五年（二八四四）長岡藩士川島徳兵衛（禄三十石）の養子に入り、弘化三年（二八四六）藩校の助教、のち若殿の小姓となり江戸詰めとなる。

小林・川島の二人は共に佐久間象山の門人となり、儒学を始め経世の学・蘭学・西洋の学問窮理学の他、砲術・海外事情などを学び開国の必要を痛感した。特に同門の吉田松陰（寅次郎）と「象門の二虎」と称された虎三郎は大学に基づく「終身・齐家・治国・平天下」を目指すには先ず人造り、教育が肝要と考えていた。

川島は維新後三島と改名、二人の主導で明治二年（一八六九）五月、焼けずに残った四郎丸昌福寺を借りて学校を開校（後に国漢学校に移行）、長岡復興の人材教育を始め、鬼頭甲子三は入学し勉学に励んだ。

同年十月、維新政府の意向で藩政執行者を藩士の入札で選出することになり、大参事に山本・小林・三島の三人が選ばれ、特に教育の為、小林が督学に任じられ先ず国漢学校が正式に発足した。その後粗末な新しい校舎を建てるなか、明治三年五月、支藩の三根山藩から藩士宛てに見舞いの米百俵が贈られてきた、しかし、虎三郎はこれを藩士に分配せず、売り払って学校の書籍器械等を購入する資に充てた。此のことが、戊辰戦争に負け、食うや食わずの苦しい生活のなか「食われぬからこそ教育をするのだ」と云う小林虎三郎の思いが、後に昭和十八年（二九四三）、山本有三の戯曲「米百俵」となり、それが平成十三年五月七日小泉首相の国会での総理大臣

就任演説で引用され、全国的に有名になった。

明治三年六月、新校舎の竣工と共に入学者の範囲が士・卒の他、農民・町人の子弟にまで及んだ。そして甲子三の父鬼頭平四郎は教授に迎え入れられた。

明治四年七月、小林は病の為退任し後任に三島が就き、明治五年洋学校設立(後の中学校)。明治六年長岡会社病院を創設、鬼頭甲子三は薬剤方付属となる。其の後、女紅場(女子の職業教育)を創立し、第六十九銀行も創設して経済の発展に尽くし、三島億二郎は長岡復興の大恩人と称えられた。

明治七年、十七歳の鬼頭甲子三は上京し、最初病院に勤務した影響か、医学を修めんと精進した。明治十五年、二十五歳の時旧御三卿・田安家の家臣福島家を継ぎ養女と結婚。

明治十六年千葉県出仕衛生課勤務、風土病の間歇病の調査で功績をあげ、内務省に瞩目され明治

十八年、東京府衛生係に栄転。明治二十一年より東京市土木課兼務水道係長となり玉川上水敷地調査、用地買収の衝にあたり数多の難題を解決し、明治二十五年、工事の起工を果たした。その間、市の第一期名誉参事会員渋沢栄一子爵と水道事業を通じて面識を得、子爵は福島甲子三の人格手腕に信頼の念を懐かれたのである。明治二十九年四月、東京水力電気株式会社創立事務所支配人に嘱望され東京市吏員を退職、翌三十年には本郷区会議員に当選した。明治三十一年九月、東京瓦斯株式会社支店に就任、実業界に於ける名望が漸く高くなった。

此の頃から若き日故郷で体験した学校創立の経緯から、教育教化の忽せに出来ぬ事を感じ、旧知の創立した「日本女子技芸学校」が其の没後、極度の財政難にあることを知り校主となり、私財を投じて経営を改善し、実に六年の辛苦を経て立派に一本立ちが出来るのを見て、之を東京市に寄付したのである。

次に、三島中洲の私塾を前身とする、二松学舎専門学校(後、大学)は、渋沢子爵理事長のもと立派になり、福島も理事に選ばれ、専ら財務に就いて努力されたのである。

本郷中学校は、当時の中学校不足の声に応じ本郷区教育会が計画され、本郷に住んでいた関係で福島も参画し、偶、会長であられた松平伯爵(高松藩)の、敷地・施設費の御寄附により創立された。理事長であり校長であられる松平伯爵のもと、福島甲子三は本郷中学校の評議員に選ばれ、後に理事に挙げられ、その経営事業に参画し得たことは大いに生き甲斐を感じた事と思われる。又、大給子爵(府内藩)・堀田伯爵(佐倉藩)は共にもと殿様の流れで、維新当時の長岡藩主牧野氏の血筋は、三河西尾藩大給松平氏からのご養子で、大給子爵とは同族であり、望外の縁に、封建の世に育った甲子三にとって理事会は、敬意を持って、親しみの持てる雰囲気の中に浸れたのではないか、と思われた。

屋久島だより

フリリッピンから流れてくる黒潮の真中に浮ぶ大きな山の島が屋久島である。本州最南端佐多岬60km南にあり、最高峰の宮之浦岳は1,936mで九州一の高さでもある。更に九州本土一の久住山よりも高い山が7座もあり、1,000m以上の山が40もある山岳島であり、洋上アルプスと呼ばれる所以である。周囲は約130kmあり、日本の島では佐渡ヶ島から数えて6番目に大きな島である。面積は500平方キロというから東京23区の8割強の広さ。そこに人間はたった14,000人。猿や鹿とほぼ同じ。過疎の島である。

暖かい黒潮と山の高さから雨が多し。雪も降る。雨が多いということとは、それだけ多くの生命も育む。1,300種に近い植物、固有種がヤ



福原 信夫

高校7回生
1955年(昭和30年)卒業
鹿児島県ユースホステル
協会理事長
屋久島ユースホステル
ペアレント

クシマリンドウなど40種も数え、南限種と北限種が同時存在する。日本固有種であるスギは北方種だが、屋久島が南限である。屋久島以南ではスギは見られない。縄文杉で有名な屋久杉(1,000年以上のスギを島ではこう呼ぶ)もこのスギである。

島は花崗岩が隆起して出来たもので、火山ではない。岩ばかりの島は土壌が少なく、植物たちは岩の上しがみついて生えている。世界自然遺産に登録(平成5年12月)された暖温帯常緑広葉樹林帯(別名照葉樹林)はその岩の上にとっと乗っている感じである。多く降る雨は、降った瞬間に川に流れ出す。どっと溢れていきなり海へ注ぎ込む。直接海に流れ出る川は100もあり、急峻な地形を流れる川には200もの滝があ

る。滝と急流の連続だ。美しい滝も多い。いちばん大きな滝は大川の滝、美しい滝千尋滝、山奥にある龍神滝、海に落ちるトロッキーの滝と数えればきりが無い。川も滝も三日も連続して降った後はすさまじい流れに変貌する。川には堤防などありはしない。谷をえぐってただひたすら下へ向かつて流れるだけ。大雨の後のそのすさまじい流れの川を眺めるのが私は好きだ。朝起きてカメラを持って家を出る。天地創造とはかくあるかと少し大げさかも知れぬがそうなのだ。特に滝はすごい。ふだん山の斜面の岩だけに、大雨の時だけ流れ落ちる滝が出来る。名前などあるわけがない。それらに自分で名をつける。そんな楽しみが雨にはある。

春、本州で桜の咲く季節、日本中がわれら本郷学園生が誇りに思うソメイヨシノでうまる頃、屋久島でも少し咲く。屋久島では寒さが欠けるため、花咲く前に葉が出てしまふ。これが残念だ。わが敷地内にも3本あり、近くの小学校の卒業



スタッフと共に 前列右から妻と私

生達が植えた記念樹も、きれいに咲いたためしがない。これがとても残念である。山の中にヤマザクラはあるのだが平地ではあまり見られない。ただ島にはゴールドデンウィークの頃、山中に咲くサクラツツジがきれいだ。桜と違い上の枝に花をつけずに、地面から一杯に背高く花をつけ

る。密生した森の緑の中にぽっかりと浮かぶそのサクラツツジの桜色の風景はソメイヨシノの少しは代りをしてくれる。

春は又屋久島の雨のシーズンの始まりでもある。この時期の雨のことを島では「木の芽流し」と呼んでいる。これは後にやってくる梅雨のことを「流し」と呼んで、区別している。4月にもなればもう真夏に近い太陽の陽ざしである。雨のあがったあとその強い光に照らされ、樹々の新芽はぐんぐん伸びて行く。4、5日気づかなかつた木の枝の先端が様変りの色に変化している。シャシャンボという木は最初真赤な新芽から始つて、じよじよに黄、緑と移つて行く。又シャリンバイの花などは淡い色で花か芽か見分けがつかない。そして色の変化はやがて下から上の山へと緑のグラデーションをつけながら登つてゆく。この時期こそが屋久島の一番躍動するシーズンである。そして又一番美しい季節でもある。雨によつてもたらされたこの地球の恵

が、生命に新しい、若い力を与えてくれる。

アカウミガメが産卵に上陸するのもこの頃だ。北の永田にあるいなか浜には連日数頭づつが砂浜に足跡をつけながら夜あがつて来る。その産卵の様はまさに生命の神秘を見る思いだ。又何千頭もの亀達がその産卵の順番を島の近くの海で待つている事を想像すると、彼等の生活力の強靱さと秩序ある行動に頭を下げずにはいられない。太平洋をぐるっと一周して、故郷へ戻つて来て子孫を殖やすという行為を太古から続けているという事は、ここに縄文時代から生き続けている屋久杉達と同じように驚異だ。私はまだ東京にいる頃、この梅雨の季節の鬱陶しさがいやだった。しかしこの島に来て「木の芽流し」という美しい言葉を知り、花の美しさと海亀の生命力を知りに及んでこの季節が一番好きになった。そして「屋久島の一番いい季節は何時ですか」という質問に、いつもこう答えている。「新緑の雨のシーズ

ンですよ。雨のイメージは変わりますよ。雨を毛嫌いせず、しっかりとした雨具を持って来て下さい。そうすれば本当の屋久島らしさを発見出来ますよ。」

夏、都会のアスファルトが焼けつく暑さで燃え盛る時、屋久島の直射の日ざしも確かに暑い。しかし森の日陰に入ればひんやりと涼しい。まして明け方、戸を開けたまま寝ていようものなら、涼しすぎて目が覚めて戸を閉める。夜中にクーラーはいらない。この季節元気なのは虫達だ。蛭やカブトムシなど子供達が好きそうな虫も多いが、悪い虫も沢山いる。20cmもあるムカデや窓一面に飛んでくるシロアリも嫌だ。ハチもそこら中に巣を作る。玄関前や風呂場の横やおかまえなしだ。夜蜂が活動をやめる頃を見計らって何人かで一斉に退治する。いわば年中行事と云ってよい。島の人は蜂が巣をつくる高さによって台風の数をあてる。台風と云えばここに来る台風は(本物)だ。勢力の一番強い奴がここに来る。

今でも思い出す。来島一年目にしてその洗礼を受けた。平成8年の6号台風だ。島の台風は通過する位置によって各集落に与える影響が全く違う。その時は南部に上陸した。私の住む平内隣りの尾之間地区は相当にひどかった。妻と二人の四本の手で停電して真暗になった玄関扉を押え続けたのである。何も島の台風の恐怖を知らない都会人にいきなり襲って来た。後で知ったことだが島の人は一週間前から対策を打っているのだ。お陰で今では来るなら来いと度胸もついた。

秋、台風シーズンが終わればあまり雨は降らない。私は乾期と呼んでいる。40日間も降らない年もあった位だ。島の秋に紅葉はない。常緑広葉樹の森だからだ。僅かにナナカマドやヤクシマオナガカエデなどが色づくが、緑に中の点々だ。平地では正月過ぎにハゼが真赤に色づく。秋は雨がないからと来る人もいるが、白谷雲水峡の美しい緑色のピロードを敷きつめたような様子も、赤茶けて



屋久島ユースホテル本館及び受付棟

元気がない。「ひどい」などと云って帰って行く人がいるが、それは自然の営みを知らない人の云い草だ。秋にはサシバの大群が島をめがけてやって来る。日本中から佐多岬へ集結したサシバが10月の体育の日頃、数日間飛んで来る。南部のモッチョム岳という海に突き出た1,000mの山

に突進して来る。そこで上昇気流に乗って奄美に一気に向かって行く。サシバの渡りで秋を感じるのである。

冬、頂上部には3～5mもの雪が積もる。勿論根雪となり、3月中旬まで雪が残る。多い年は谷筋にゴールデンウィークの頃雪を見る時がある。何しろ頂上部の平均気温は札幌と同じなのである。島の気候は集落によってかなり違う。冬では北側と私の南側では4～5℃の気温差がある日がある。北でストープをつけているのに、南ではセーターもいらぬという位に違う。雨も集落によって違う。頂上部では8,000～10,000mm降る雨も、宮之浦で5,000mm私の住む坪内では3,500mmという具合だ。夏買物に安房まで行くとザアザア降っていたのに家に帰ると雨の跡もない。これを微少気候というらしい。まして、山の中での変化たるやもつと激しい。これが屋久島登山の難しさなのである。

私はこの地にユースホステルを開業して14年目になる。世界自然遺

産に登録された直後に土地を購入し、平成8年に開業した。それまでこの島にユースホステルがなかったこともあり、若い人達の宿という思いと、本郷高校時代からの山好きが高じたこともあり山宿のつもりで始めたのである。東京でレコード業界に長年いて働いている間も日本百名山などに登って、老後は何処か山に近い所に住みたいと強く思っていた事もあり、最終的に妻の同意のもと、この温暖な地に終の住処と趣味を兼ね（屋久島ユースホステル）となったのである。当初19名定員の小さな宿であったが、今では新館も出来定員も44名となり敷地も少しづつ拡張2,500坪となった。スタッフの協力もあり2軒目のユースホステルも島の中心宮之浦の港近くに（宮之浦ポートサイドユースホステル）を5年前に営業を開始した。今は二軒のユースを連係しながら国際化時代のユースに向けて努力を続けている。

国も県も観光立国ということので、

外国人観光客の勧誘に力を入れて来た。事実最近の外国人観光客の増大には驚いている次第である。慣れないブロークンの英語で日々苦労している。もつと英語の勉強をしなければと思うものもう遅いのである。しかし何とか時代について行こうと頑張っている。ここ南部には天然の温泉が湧き出しており、平内海中温泉、尾之間温泉も近い。私に移住したのもこの湯があったからだ。4年前胃の全摘手術を受けてからはほぼ毎日通っている。島の人と会話を交しながらリハビリを兼ね湯浴みを楽しんでいる。お陰で体調もよい。

こんな屋久島に、本郷高校同窓会のみなさんは非おいで下さい。ユースはどなたも泊れます。建物も杉の木造りの海の見える森の中で静かです。島に移住して15年。屋久島観光や山登りの案内はおまかせ下さい。酒の御相手も出来るようになりました。未だ80才までは頑張るつもりです。

文部科学大臣杯 第5回

小・中学校将棋団体戦の

東日本大会に出場して



本郷学園教諭
囲碁将棋部顧問

移川 真男

高校42年生

1990年(平成2年)卒業

2009年7月23日(水)、産経新聞社・日本将棋連盟主催の文部科学大臣杯第5回小・中学校将棋団体戦の東日本大会が、新木場のBEMO東京スポーツ文科館で開催され、中学囲碁将棋部の1チーム(山崎拳矢・石野凌・宮路暁久の3名)が出場しました。

この大会は、同一の小・中学校に在学する生徒3名で編成されたチームで行う将棋団体戦です。都道府県ごとの地方予選を勝ち上がった32チームが東日本大会に進出し、上位2チームと西日本大会の上位2チームの4強が決勝大会を行って日本一を決定するものです。各自自治体の教育委員会の普及活動もあつて年々、参加校が増え続けており、今大会中学校の地方予選には過去最多の1,562名が参加しました。

6月21日(日)に開催された東京都大会に、麻布中・開成中・武蔵中・桐朋中・板橋区立赤塚第二中など53チーム(159名)が参加し、本校からも3チーム(9名)が出場しました。そのうちAチームが10ブロックの代表チーム同士による決定戦に進出し、都立白鷗高付属中Aチームと対戦しました。残念ながら負けしてしまったのですが、白鷗中が学校行事の関係で東日本大会への出場を辞退することになり、繰上げで東京都代表(計5チーム)になりました。

挨拶された佐藤九段をはじめ、所司七段・勝又六段ら10名以上のプロ棋士が来場され、小・中学校の大会ながら緊張感のある幕開けでした。開会式の後、地区代表32チームが4ブロックに分かれてリーグ戦3局を行い、各ブロック

の最上位4チームによる決勝トーナメントで東日本代表を決定しました。持ち時間1人20分の3名同時対局により2勝以上でチームの勝利となりますが、ブロック優勝には3連勝しなければならぬハードな戦いです。本校はDブロックで、いわき市立泉中(福島県代表)・古河市立古河第二中(茨城県代表)・私立栄光学園中(神奈川県代表)との対局となりました。初戦の泉中は全員が慎重になりましたのか、持ち時間を使いきり、1-2で惜敗でした。続く古河第二中に2-1で勝利したものの、うまく波に乗れなかったように、栄光学園中に1-2で負けてしまい、チームとしてはブロック5位でした。ただ、神奈川県の高豪校である栄光学園中(東日本大会に2チームが出場)と内容的に善戦できたことは、参加した生徒諸君にとつて意味のある大会になりました。今後のクラブ活動で充実した対局を積み、実力をあげていければ、次につながるでしょう。

繰り上げとはいえ、東京都代表として東日本大会に出場できたことは、今



第5回 文部科学大臣杯 中学校将棋団体戦メンバー

後の囲碁将棋部の活動にとっても大きな財産となりました。他の東京都代表はブロック優勝ないし2位の成績であったことから、激戦必至の東京都予選を勝ち抜くことができれば、東日本大会での相応の結果を残すことにつながり、決勝大会も……。まず、今年度は真の東京都代表となることを目標に活動していきたいと思えます。応援、宜しくお願い申し上げます。

それが本郷クオリティ

漫画劇画部の部長をしていた私が冒頭に持つてくる話題としては不自然に思われるかもしれませんが、私の部活動への姿勢に大きな影響を与えたのは平成19年度のラグビー部の花園出場でした。当時高校2年生で生徒会役員だった私は、秩父宮ラグビー場で行われた都大会決勝を観に行きました。花園出場をかけた二進二退の攻防の末、見事勝利した試合に心を震わせたのを記憶しています。そこで私を更に感動させたのは、試合後に突然高校3年生の先輩方が肩を組み、校歌を歌い出したことでした。それはあまりにも自然に溢れ出した、選手たちへの称賛と愛校心だったのでしよう。その時に私は、自らが部長を務める漫画劇画部でも、本郷の名を全国へ轟かせてやると決心したのでした。

40年以上の歴史を持ち、著名な漫画家を多数輩出している部活の部長に指名して頂けたことは身に余る光栄でした。しかし、多くの部長が中学1年から在籍していた経験者だったのに対し、私は高校1年から入部した身であり、致命的な経験不足を感じていました。拙い絵、慣れないつけペン、カラーインク……絵を描き始めて僅か1年半、序の口どころか新弟子です。そんな私に助言をして下さったのが、先輩方でした。どうせみんな素人だから、みんなでするの上手くなつていけばいい——と。漫画劇画部の自慢のつは、先輩・後輩の仲が良いことです。先輩方は常に部の指導者であり、ムードメーカーであり、いじられ役でした。歴代の先輩方が部室に残っていた「伝説」及び「黒歴史」は数知れません。部員減少により部の存



前漫画劇画部部长

太田 紘一

高校61回生

2009年(平成21年)卒業

続が危ぶまれた時も、先輩方の努力により持ち直してきました。そんな先輩方の背中を見てきたからこそ、私も青春をこの部活に捧げたいと思えたのです。同時に、他の部活動で活躍している同輩にも刺激されました。運動部だろうと文化部だろうと、ベストを尽くしている姿は素敵滅法、惚れてしまいます。

故に、私もベストを尽くしました。その結果として、我が漫画劇画部が「全国高等学校まんが選手権大会」まんが甲子園」への出場という夢を、Web投票1位という最高の結果で叶えることができたこと、これを私は「一生の宝」としていきたく思います。「まんが甲子園」だけではありません。部誌『本郷本』もまた、部員にとっては年に2度の大仕事です。眼前へ迫りくる締切への恐怖と闘いつつ、何日も夜を徹し、原稿用紙にインクと共に己の魂を叩き付けた夏の日々。それが2冊の本になり、買って読んでくれる人がいる歓喜——ここに、筆舌に尽くしがたい漫画劇画部員の青春があります。他校の部誌の多くは短編かイラスト集であるのに対し、こ

こまで漫画一本に拘っている学校は滅多にありません。どんなに拙い出来であろうと、全身全霊で漫画を描き上げたことを部員は誇りに思うでしょう。

本郷での生活は火砕流のごとく強烈でした。みんな「なんかおかしい」。何か全体の雰囲気として他校とは一線を画す、「本郷クオリティ」と呼ばれるものが、確かにありました。あくまで節度は守りつつ、中高生だからこそ、そして男子校だからこそ許される自由奔放さを持ち合わせていたように思います。私自身もそれにすっかり気を良くして、色々やらかした記憶があります。先生方には多大なご苦労をおかけしましたが、我々生徒は心底楽しんでおりました。多くの卒業生が口を揃えて言うのは、「本郷は良い学校だった。あんな馬鹿騒ぎができる仲間にはなかなか会えない」ということです。これも、生徒の言動を苦笑いしながら許容して下さった先生方のお陰です。ありがとうございました。

私が卒業した昨年、漫画劇画部の現役部員は2年連続で「まんが甲子園」への出場を果たしてくれました。そんな

な後輩達を私は誇りに思います。



今後は日本一を目指して、是非とも勇往邁進して頂きたいです。また、これからの本郷生はより勉学が忙しくなるかとは思いますが、ほんの数年前にラグビー場で肩を組んで校歌を歌った先輩達がいたこと、「本郷クオリティ」というブツ飛んだ気質を持った生徒が沢山いて、彼女はいなくても学園生活を目指し杯謳歌していたことを、後輩たちにも受け継いで頂きたいと思えます。そうすれば、将来この時期をふと振り返った時に、「ああ、俺は本郷にいて楽しかった」と思えることでしょう。私自身も本郷で培った精神を活かし、国の柱となる為に日々努めていく所存です。

本郷中学「教養講座」の講師に

本郷中学では、保護者や同窓生からも講師を募って夏休みの「教養講座」を開催しています。

「ものづくりの楽しさ」



昨年の講座では、南谷修氏（高校8回生≡1995年〈昭和31年〉卒業）

が、建築技術者として「ものづくりの楽しさ」を講義しました。同氏は、本郷中学、本郷高校を卒業後、日本大学を経て鹿島建設株式会社に入社し、おもに建築工事現場で現場監督、所長として多くの建築物の建設に携わり、さらに代表取締役副社長の立場で建築部門を統括する最高責任者を務めました。今も同社の顧問をしています。

建造物の歴史は、人類が自然環境と外敵から身を守るために「住まい」

を構えて以来、人類の歴史とともに進化し、ついには高層ビルやダム、橋梁、地下を含む鉄道、道路など、巨大な構造物時代を迎えています。

講義で南谷氏は、まず、より良い環境を追求し現実化することで、人々が「安全」、「快適」な生活を営み、「笑顔」で暮らせる社会をつくることを求めて「お手伝いすることが基本です」と語りかけ、ものづくりの精神は、「つくる喜び」を感じることであると指摘していました。「つくることの喜び、そして形にできる喜び、それを使う人の喜び、人々が感動する喜びなど、喜びの集積こそがものづくりである」と訴えました。そして、「（街づくりの）国家百年の計を現実にし、成果は形に残り、多くの人々に利用されます」と建設の仕事に取り組み喜びと誇りを語っておりました。

さらに、「夢をあきらめたときに夢となり、失敗は挑戦をやめたとき

きに失敗となる」と訴え、「無から形をつくり、さらに進化させていくものづくり」の原点は、夢を抱き失敗を恐れずチャレンジを続けるところにある、と強調していました。

そのうえで、エジプトのピラミッドや佐賀県吉野ヶ里の竪穴遺跡から今日の超高層ビルまで、一つひとつ写真を示しながら建築の歴史をたどったあと、建物をつくる技術として①地震の揺れから建物を守る技術②建物を組み立てる技術③建物を快適に使う技術④タワークレインをどうやって降ろすか⑤最新の技術情報「鹿島カット&ダウン工法」⑥ビルの重さ、について写真や図形を使って説明していました。



「半導体集積回路製造（設計編）」

田中良二氏（高校24回生≡1972年〈昭和47年〉卒業）が担当した

のは「半導体集積回路製造（設計編）」。半導体はいろいろなところにたくさん利用されています。たとえば飛行機、自動車、カメラ、パソコン、電化製品、生産工場の制御機器などの部品として内蔵されています。その基本となる回路を知ってもらうための講座です。

講座では、半導体集積回路製造の流れについて、製品企画から設計までを講義し、最後に回路パターンの設計演習をしました。まだ基本的な知識がない中学生が対象ですので、インパターの回路パターンを作成し、色塗りをして理解を深めていました。

東海大学理学部に進んだ田中氏は、本郷高校で教育実習までして理科の教師を目指していました。しかし、卒業前に半導体に興味をもって方向転換し、半導体集積回路設計にたずさわって35年以上になります。一念発起して仕事を続けながら佐賀大学大学院ドクターコースに進み情報

工学を専攻しています。こうした半導体集積回路設計のキャリアと大学院での研究成果を踏まえ、2年前に続いて2回目の講座の担当です。

講座の講師を募集しています。

本郷中学校では、1、2年生を対象として開催する夏休みの「教養講座」の講師を、学外関係者からも広く募っています。日頃の授業の枠をこえ、生徒の人生経験を広げるきっかけとなるような講座を目指すものです。生徒にとっては学校の外の世界を知る貴重な経験になります。また、講師の方々にとっても好奇心旺盛な若々しい生徒達と交流できるよい機会になることでしょう。



『FC本郷50』サッカーチーム

都シニアリーグ1部に昇格

野田 悠二

（高校24回生＝1972年（昭和47年）卒業）

『FC本郷50』サッカーチームは、すべてのメンバーが本郷高校サッカー部出身、年齢50歳以上のOBチームです。2007年から活動開始して本年で4年目を迎えます。東京都シニアリーグ3部からスタート、本年4年目にして念願の1部リーグへの昇格を果たしました。

本年は、本郷高校サッカー部の伝統である【粘り強い・ひたむきな・最後まで諦めない・真摯な】プレーで、「東京都シニアリーグ1部」優勝目指し、本郷サッカー部の旋風を巻き起こしていきたくと考えています。OBの皆様、最後までご声援下さい。



同期の

輪

同期の輪

高校59回生

(2007年≡平成19年≡卒業)

成人の集い

田中大貴

高校を卒業してあらたな環境に身を投じてしまうと、よほど親しくない限り学友との関係は疎遠となつてしまいがちなものです。私も大学生活の日常に順応する忙しさに埋没してしまい中学・高校の友人とはなかなか会うことができませんでした。しかし今回同窓会の諸先輩方のご尽力によって、成人の集い(昨年5月23日≡写真)という形で久闊を叙する場を与えてくださったことは、新生活に疲れ始めていた我々にとり大きな励ましとなりました。その準備にあたって諸先輩方並びに諸先生方

の協力をいただきながら委員の皆と計画を進めてきましたが、委員として数度の会合を持ちながら、そのおりに委員同士の関係が深まったことと私にとつて大きな喜びです。

当日の天気も幸いにして良好で初夏の趣のある少し暑いくらいの日和でした。卒業時とかわらぬ巢鴨の町並みもこの日は少しばかり優しげに見えます。疎遠となっていた友人と久方ぶりに再会することができるとあつて、私自身久しぶりに浮かれた気持ちでいたことは否めません。出欠の確認はしていたとはいえ実際にどれほどの出席をいただけるかは、当日までわからないこともあり開場時間までは多少不安もございました。しかしながら時間前に多くの同期生が集まり思い出話や近況報告に花を咲かせるに至つて、それもきれいに解消いたしました。懐かしい顔がドアの先から覗くたびに、歓声が上がつて再会を喜び合う姿を受付席



のほうで眺めるのは心が躍ります。

高まる期待の中でいよいよ開会時刻となり、私も実行委員長として御来賓の皆さまに交じってスピーチしました。が、いま思い出しても緊張のあまり何を口にしたのやらわかりません。会の中で友人たちに上り症と滑り癖は変わっていないと、冷やかしの笑みとともにからかわれました。そして始まった成人の集いでしたが、よくも悪くもまさに本郷高校の学校風景そのもの。友人同士の掛け合いの共演がもう一度見られることは、この集いがなければありえなかつたでしょう。でありながら、どこか柔らかな雰囲気を出していたのは卒業より2年の時が過ぎた分だけ皆確実に大人になり、それでも話しだしてみればお互いが変わっていないことが分かり、それが懐かしく、そして嬉しいからだよ、と。食事そっちのけで歓談する友人たちからはそんな思いが伝わってきました。たくさん

の問題児をもう一度見ることもなかった先生方も、苦笑いとともに教え子の成長を確かに感じ取っていたのではないのでしょうか。我々の学年では教師・生徒の関係は特別近しかった印象があったのですが、それは間違いではなかったようです。先生方が会場に来られるたびに学友たちが話しかけに行く。なんとも心温まる光景でした。少々はしやぎすぎた部分はありましたが、終始和やかに会を執り行うことができました。

友人と会う。ただそれだけのことですが生きる世界が変わればそれはなかなか、なしがたいことです。しかし、それもきつかけひとつあれば、いかようにも縁というものはつなぐことができるのだと悟りました。私が曲がりなりにも実行委員長として会を行った結果としての所感です。また、同窓生の集まりというものは親しい間柄での小規模なものになりがちです。学年全体となると卒業

以来一度も集まらない、集めようとなないことも十分にありえます。

今後我々の後輩たちも本郷を卒業してゆくでしょう。その中で切れた縁をつなぎなおすことができ成人の集いという場が、これからも長きにわたって伝統として根付いてほしい。そして私の経験がその一助となってくればそれに勝る喜びはないと思ひ筆をとらせていただきました。同窓会の諸先輩方には感謝の念に堪えません。成人の集いの伝統化と同窓会のつながりが続いてゆくことを願って末尾の言葉に代えさせていただきます。

同期の会

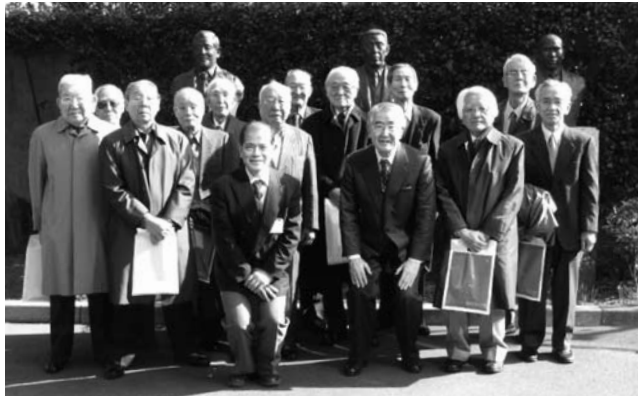
中学18回生

(1945年11月昭和20年11月卒業)

同期悠交会

岡田光正

旧制18期の悠交会では、毎年、旧交を温める新年会を開催しておりますが、今年、新装なった本校や、人工芝を拝見する目的で、本校前の



バルテールを会場として、去る1月20日に開催されました(写真)。なごやかに旧交を温め、校歌を合唱し、本校においては、松平理事長にもお目にかかることができ、一同、大感激でした。

同期の会

高校6回生

(1952年昭和29年卒業)

染井ふくの会(29回) 篠喜三郎

平成21年5月のG.Wの後半3日

間は雨で、9日(土)に予定している同期会が、どうなる事かと気をもんでいたが、当日は初夏の陽気となつて汗ばむほどの好天気となつた。参加者18名であつたが皆元氣一杯の顔々でした(写真)。既に老人様(サマ)になつている者も何人かはいたが、未だ現役続投の者が7名いたことに敬服しました。特にジャズバンドを率いるリチャード・バインこと松本易夫氏は、今年もスケジュール一杯との事。座布団3枚と云いたい所です。しかし前回の会より松坂忠明、田中登、佐野義信、石井延彦、稲垣弘の5名が他界して居り、会の始まりは彼等への「黙禱」からとなつた。2年振りの再会には、楽しい歓談の場となつて、時間の経過が恨めしかった。今回からは高6回同期会を「染



井ふくの会(29回)の二回目会合となつて、校歌斉唱の後、二本締めで散会となつた。尚、当店のおナー平子浅雄先輩には、過分のご支援を頂き、この場を拝借して重ねてお礼申し上げます。

同期の影

高校7回生（1955年昭和30年卒業）

同期会

福原信夫

平成21年10月3日。卒後55年目にして始めてと云つてよい高7回生の同期会を行った(写真)。秋元幹夫君が幹事となつて呼びかけてくれ10人が集った。井嶋佳二郎君、上岡延好君、高橋三郎君、宮崎靖司君、塚原正男君、茂木進君、大島正己君、鈴木健君(順不同)と幹事及び小生福原信夫の10人だ。他に担任の石井光和先生(数学)が82才のご高齢にも拘らずかけつけてくださった。

校門からの銀杏並木は健在で、当時の面影が残っていた。コンクリートが打ち放しの殺風景な当時の校舎とは比較にならぬ程立派なものになっていたことに皆感激の面持だった。石井先生の案内で校舎内を見学した。校門前並木の右側に木造だった「永井体育館」はビルの校舎内に移されたが、雰囲気はそのままだった。松平頼武

理事長にもお目にかかり皆でご挨拶をした。真面目に授業を受けている学生達を見ていると、われらの悪童時代とは様変りだった。聞けば東大、各国立大、有名私大に多数合格者を出しており、その数を聞き、ここまで成長した母校に誇りを感じると共に、理事長はじめ先生方の並々ならぬご苦労に頭の下がる思いであった。又スポーツ面での北島康介君をはじめラグビー、サッカーの全国的な躍進にもめざましいものがあるとのこと、入口に並ぶトロフィーの多さに目を奪われたのであった。持つものはいい後輩だと皆が幸せな気分になった。

グラウンドも人工芝で美しく変身し、巣鴨側にも立派な門が出来、その昔フェンスをくぐり抜けていた頃とは様変りしていた。銅像前で記念撮影を終え、巣鴨駅前すし屋で石井先生を囲み、旧交を温めた。じっくり顔を会わせば55年の歳月が幻の如く消え、当時の姿が蘇って来た。懐かし



い当時の学校生活に話が弾んだ。貧しい弁当事情、各先生方の思い出など遠い昔を思い、楽しいひとときを過ごすことが出来た。石井先生にも貴重なお話をお伺い出来、何よりのことでもあった。次回はもっと大勢集まるよう互に呼びかけをすることとし、それぞれの健康と再会を約し、駅前を後にした。



同期の会
高校8回生
 同期会

(1956年〓昭和31年〓卒業)
 新澤米次

平成21年12月5日(土)午後3時
 から本郷学園来賓室(2F)で開催
 した(写真)。17名の元気な姿です。

次回開催を約束して二次会に移り、
 小幡氏も参加して、全員大いに語り
 合い心を一つに結集しました。

同期の会
高校10回生
 同期会

(1958年〓昭和33年〓卒業)
 青木弘三

どうぞ！席を開けてくれた学生
 が居た。好意を受け巣鴨駅下車。
 何と、その学生も降りた。導かれ
 るように行くその学生は本郷の門
 をくぐった。

隣接した三菱養和会内レスト
 ランで今日は10年振りの同期会だ
 (写真)。おゝ久しぶり変わらない
 ね!? 中には卒業以来の見知ら
 ぬ人達が何人か居るではないか。
 相手も同じ気持ちだったろう。発
 起人代表、井上氏の挨拶に始まり
 乾杯。歓談に移る頃には見知らぬ
 人も含めあちこちで笑い声が響き
 渡った。思えば授業中数学の先生
 にチョークを投げられたり、教室の



後ろからそつとエスケープする生徒
 が居たりしたものだ。

当時は勉強より遊びに力が入っ
 ていたと思う。その点運動部は練
 習に試合にと活躍が目立ち野球
 部では元巨人軍の王選手と互角に

戦い、相撲部も花籠部屋から力士が来て稽古を付けてくれたり、体操部、バスケット部等々の運動部の楽しかった思い出で花が咲いた。只勉強のことは覚えていないのか、家でも机に向かった記憶が無いからだろう、話題にはならなかった。そんな大らかな学園生活だったのかも知れない。そんな面々の集いであつた。

次回は2年後に再会することに決着し閉会となった。その頃は席を譲ってくれたあの生徒もきつと早稲田か慶応に合格し、良き青春を歩んでいることだろう。

同期の集い
高校12回
同期会

(1960年昭和35年卒業)

田嶋輝男

今から18年前、卒業以来32年振りに初めて同期会を計画し、4か月間ほど友達を訪ね歩いて連絡を取った結果、上野の東天紅に56人が

集まった事を思い出します。しかしその後間もなく、元気に出席された金井肇先生が突然他界され、今でも私の心に深く「あの時、同期会をやつていなかったら…」との思いが残っています。同期会の開催にあれば夢中になれたのも虫が知らせてくれたのでしょうか。「オイ田嶋、皆を集めるよ」と、金井先生が旅立つ前に言ってくれたような気がしてなりません。

又その後、私と同じ小岩駅から学校に通った辻本靖君と島崎弘君が亡くなり、更に隣りの市川市から通っていた川崎健太君も他界され、何とも言い様の無い淋しさを感じました。

あれから18年が経ち、昨年10月21日に第2回同期会を行うに当たり、連絡を取った結果、病気の方や又他界された方等、移転の為連絡が取れず、18年の月日を感じました。そんな中20人のメンバーが出席



され、元気な顔を見る事が出来、中には、50年振りと云う人も居り、大変、感激をしていました(写真)後列左から錦孝治、佐野成征、中村宣由、伊奈信行、阿久津二三男、古川

進、矢部恭一、渡部清吾君。中列左から大棍勝英、大西吉一、江原稔、小早川正幸、井口勝弘、深沢素夫君。前列左から長谷川修、埴和道君、私、戸塚雄三、中杉寿、市倉洋二君。

その時、別のグループで同期会をされていた幹事の市倉洋二君が出席され、2か月後の12月に市倉君達の同期会が開催されることを知りました。これには、私をはじめ10月の人達も参加されて、二つの同期会の交流が出来ました。これから12回生の同期会が大きな輪になって行く事であろう、と楽しみにしております。

同期の部
高校13回
同期会

(1961年11月卒業)

齊藤毅

昭和36年3月に卒業して以来49年がたった同期会である(写真)。今回は17名の参加であった。今回の同期会開催(平成21年11月15日)にあたり、まだ我々同期会の発足を知らない方への声かけを行い2名の方が新しく参加してくれた。まだ、現役の方もいれば退職してボランティア活動等頑張っている方もおり現状報告に話が弾んで楽しい時間を過ごした。開催はJ.R水道橋駅近くのホテルメトロポリタンエドモントで開催し、当時のアルバムを見ながら高校時代の昔話に花が咲いた。毎年こうしてあえることの喜びを確認し合いながら次回はより多くの同窓にあえることを期待して散会した。



◆ 第一章 名称及び位置 ◆

《名称》

第一条 本会は本郷学園同窓会という。

《位置》

第二条 本会は事務所を東京都豊島区駒込四丁目十一番一号
学校法人 本郷学園内に置く。

◆ 第二章 目的 ◆

《目的》

第三条 本会は会員相互の親睦を深め母校の発展をはかることを目的とする。

《事業》

第四条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 会員の親睦会の開催
- (2) 会誌の発行
- (3) 母校の後援
- (4) 会員名簿の整備管理
- (5) ホームページの管理
- (6) その他前条の目的を達成するために必要な事業

◆ 第三章 組織及び役員 ◆

《会員》

第五条 本会は次の会員により組織する。

- (1) 旧制本郷中学校及び本郷高等学校卒業生
- (2) 本郷中学校卒業生及び旧制本郷中学校並びに本郷高等学校に在籍したことのある者で理事会の承認を得た者

《役員》

第六条 本会には次の役員を置く。

会長 一名、副会長 若干名、理事 各任期若干名、監事 二名

《役員選出》

第七条 前条の役員は次の方法により定める。

- (1) 会長は理事会において理事の互選により選出する。
- (2) 副会長は理事の中から会長の委嘱によつて定める。
- (3) 理事は各任期の中から選出し、総会の承認を得るものとする。ただし選出のない任期からの理事は会長が委嘱し、総会の承認を得るものとする。

(4) 監事は総会において会員の中から選出する。

《名誉会長及び顧問、相談役の設置》

- 第八条 本会に名誉会長及び顧問、相談役を置くことができる。二名誉会長は本郷学園理事長にこれを委嘱する。
- 三顧問は本郷学園名誉校長及び校長並びに本会会長経験者にこれを委嘱する。
- 四相談役は副会長、理事、監事の経験者の中より会長がこれを委嘱する。

《役員の仕事》

第九条 役員は次の任務を行う。

- (1) 会長は会を代表して会務を総括執行する。
- (2) 副会長は会長を補佐し会長事務を代行する。
- (3) 理事は理事会に出席して本会の運営に参画する。
- (4) 監事は会計を監査する。又、理事会及び運営委員会に出席し意見を述べることが出来る。
- (5) 理事及び監事は相互に兼ねることはできない。
- (6) 顧問、相談役は会長の要請により会議に出席する。

《役員の任期及び解任》

- 第十条 役員は任期は三年とする。ただし再任は妨げない。二補充により選出された役員は任期は三年間の当該任期の残任期間とする。

三前第一項、第二項にかかわらず、役員は次期役員の出日までは、なお、その任務を行う。

四会長は役員が同窓会の役員としてふさわしくない行為を行った場合、又は特別の事情がある場合には、副会長と協議のうえ当該役員を解任することができる。

◆ 第四章 会議 ◆

《会議》

第十二条 本会の行う会議は総会、理事会、運営委員会とする。

二会議の議長は会長がこれにあたる。

《総会》

第十三条 定期総会は毎年一回、事業年度終了後三か月以内に開催し、次の事項を審議し議決する。

- (1) 事業計画及び収支予算の決定

- (2) 会則の改正
 - (3) 理事の承認並びに監事の選出
 - (4) 事業報告及び収支決算の承認
 - (5) その他本会の運営に関する重要事項
- 二会長は理事会の議決により臨時に総会を招集することができる。

《理事会》

第十三条 理事会は会長の要請もしくは理事の過半数の請求により開催する。

二理事会は次の事項を審議し議決する。

- (1) 会長の選出
- (2) 第五条第2号に該当する会員の承認
- (3) 総会の議決した事項の執行
- (4) 総会に付議すべき事項
- (5) 運営委員会より付議された事項
- (6) その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

《運営委員会》

第十四条 運営委員会は会長及び副会長、本会の事業を担当する理事で構成する。

二運営委員会は会長の招集によつて開催し、本会の日常の運営にあたる。

第十五条 第十二条第二項並びに第十三条第二項にかかわらず、緊急を要する事案は運営委員会において処理し、事後、理事会の承認を得るものとする。

◆ 第五章 事業及び議決 ◆

《事業の遂行》

第十六条 会長は、企画及び会誌の発行、会計、庶務等の副会長の担当を定め、かつ、これを補佐する理事を指名する。担当副会長は理事の協力を得て本会の事業を行う。

《事務取扱者》

第十七条 本会の事務を処理するため事務取扱者を置く。担当者は運営委員会委員の中より会長が委嘱する。

《議決》

第十八条 会員は総会において発言権、議決権を有する。

二総会、理事会の議決は出席者の過半数をもつて決する。可否同数の場合は議長が決める。

◆ 第六章 会計 ◆

《事業年度》

第十九条 本会の会計年度は毎年四月一日に始まり翌年三月三十一日に終わる。

《事業計画及び収支予算》

第二十条 本会の事業計画書及び収支予算書は会長が作成し、総会の議決を得なければならない。ただし総会までの間は理事会の議決によることを妨げない。

《事業報告及び収支決算》

第二十一条 本会の事業報告書及び収支決算書は、会長が事業年度終了後遅滞なく作成し、監事の監査を経たうえ、総会の議決を得なければならない。

《会計》

第二十二条 本会の経費及び事業資金は次をもつて充当する。

- (1) 入会金
- (2) 会員の年会費
- (3) 利息収入
- (4) 寄付金品

二いったん納入した金品は一切返還しない。

第二十三条 会員は年会費を二口式千円として二口以上を毎年納付するものとする。

二卒業時の入会金は壹万円とする。

◆ 第七章 会則の改正 ◆

第二十四条 本会則は総会において出席会員の三分の二以上の賛成を経て改正することができる。

◆ 付則 ◆

本会則は平成十五年六月二十二日より施行する。

本改正会則は平成二十二年六月十九日より施行する。ただし第二十三条第一項については平成二十三年度より実施する。

以上

自・2010年4月1日 至・2011年3月31日

会員親睦会等の開催

- 第3回「成人の集い」(高校60回生(2008年)平成20年)3月卒業)の日時・5月15日(土)15時。会場・三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内。費用・学園と同窓会で二分分し負担(会費1人1,000円を徴収し費用に繰り入れ)
- 理事会後の懇親会開催の日時・4月17日(土)17時。会場・三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内。会費制
- 定期総会後の懇親会開催の日時・6月19日(土)17時。会場・三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内。会費制
- 本郷祭(学園文化祭)同窓会展示室開設日・9月25日(土)、26日(日)
- 本郷祭同窓会懇親会(サロン)の日時・9月26日(日)13時～16時。会場・三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内。費用・同窓会負担(会費1人1,000円を徴収し費用に繰り入れ)

- 理事会後の新年会開催・1月15日(土)17時。三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内。会費制

会誌の発行

- 「銀友」39号発行日・6月1日。発行部数・15,000部。A5版

母校の後援

- 英文『本郷のあゆみ』製作・寄贈製作部数500

- 各分野における全国規模の大会等で活躍した生徒を表彰

- 卒業生全員に記念品贈呈

- 学業優秀な卒業生に「同窓会賞」贈呈

- 中学校教養講座の支援

会員名簿の管理

- 名簿管理ソフトの新規作成
- 住所変更などの各種管理

ホームページの管理

- プロバイダ契約継続

その他の事業

- 学園との懇親会開催
- 父母の会との交歓会開催
- 入学・卒業式、体育祭など学校行事への役員代表の出席、参観

会議の開催

- 定期総会の日時・6月19日(土)15時。会場・母校会議室
- 理事会の日時・4月17日(土)、1月15日(土)以上15時。会場・母校会議室
- 運営委員会の日時・4月17日(土)、5月15日(土)、6月19日(土)、7月17日(土)、9月18日(土)、10月16日(土)、11月20日(土)、12月18日(土)、1月15日(土)、2月19日(土)、3月19日(土)以上14時。会場・母校同窓会室並びに会議室

会室並びに会議室

- 第3回「成人の集い」(高校60回生(2008年)平成20年)3月卒業)実行委員会の日時・4月24日(土)13時。会場・母校同窓会室
- 第4回「成人の集い」(高校61回



● 第6回「成人の集い」
 〈高校63回生(2011年)平成23年3月卒業〉実行委員会結成日時…3月15日13時
 生(2009年)平成21年3月卒業)実行委員会日時…12月18日(土)、2月19日(土)13時。会場…母校同窓会室

2010年度収支予算
 2010年4月1日～2011年3月31日

科 目	収 入	科 目	支 出
新卒者同窓会入会金	930,000	総 会 費	0
同窓会年会費	2,800,000	会誌発行費	2,630,000
成人の集い		銀友製作費	1,400,000
会 費	100,000	宛名印刷費	100,000
学園側負担金	270,000	ラッピング費	250,000
同窓会サロン会費	80,000	発送費	780,000
雑収入(預貯金利息等)	6,000	編集諸経費	100,000
		行事部門(執行部門)	2,600,000
		成人の集い(第3回)	680,000
		// (第4回)	50,000
		同窓会サロン費	250,000
		本郷祭出展費	20,000
		同期会開催支援費	50,000
		活躍した生徒への激励費	900,000
		卒業生記念品費	200,000
		同窓会賞費	50,000
		学園懇親会費	300,000
		父母の会交歓会費	100,000
		会員名簿保守管理費	250,000
		通信費	50,000
		ホームページ年間契約料	20,000
		一般通信	30,000
		印刷費(一般)	30,000
		運営委員会交通費補助	120,000
		振り込み手数料	10,000
		雑費	35,000
		事務消耗費	
		コピー等	
		英文本郷のあゆみ製作費	2,000,000
		名簿管理ソフト作成費	200,000
		予備費	500,000
収入合計	4,186,000	支出合計	8,425,000
前年度繰越金	6,856,756	次年度繰越金	2,617,756
合 計	11,042,756	合 計	11,042,756

自・2009年(平成21年)4月1日 至・2010年(平成22年)3月31日

会員親睦会等の開催

- 第2回「成人の集い」(高校59回生(2007年)平成19年)3月卒(業)の日時…5月23日(土)15時。
会場…三菱養和会「菓鴨スポーツセンター」内。参加者数…102人(うち理事長、校長、担任教諭など学園関係者12人。同窓会関係者12人)。費用…学園と同窓会で二等分し負担(会費1人1,000円を徴収し費用に繰り入れ)
- 理事会後の懇親会の日時…4月18日(土)17時。会場…三菱養和会「菓鴨スポーツセンター」内。会費制
- 定期総会後の懇親会の日時…6月20日(土)17時。会場…三菱養和会「菓鴨スポーツセンター」内。会費制
- 本郷祭(学園文化祭)同窓会展示室開設(詳細36頁)開設日…9月19日(土)、20日(日)
- 本郷祭同窓会懇親会(サロン)開催(詳細36頁)日時…9月20日(日)13時～16時。会場…三菱養和会「菓鴨スポーツセンター」内。参加者数…78人。費用…同窓会負担(会費1人

1,000円を徴収し費用に繰り入れ)

- 理事会後の新年会の日時…1月16日(土)17時。会場…三菱養和会「菓鴨スポーツセンター」内。会費制

会誌の発行

- 「銀友」38号発行日…6月1日。発行部数…1,4000部。変型判。本文36ページ

母校の後援

- 各分野における全国規模の大会等で活躍した生徒を表彰…19件95人(詳細34頁)
- 卒業生全員に記念品贈呈…印鑑セットを314人に
- 学業優秀な卒業生に「同窓会賞」贈呈…図書カードを9人に
- 中学校教養講座の支援

会員名簿の管理

- 住所変更などの各種管理

ホームページの管理

- 各種管理
- プロバイダ(ドメイン)DNS用)の変更並びに契約

その他の事業

- 学園との懇親会開催…同窓会より12人参加。日時…11月25日(水)18時。会場…三菱養和会「菓鴨スポーツセンター」内。学園側からは理事長、常務理事、事務長、校長、中・高教頭、母校OB教諭(同窓会担当)が参加。費用…学園と同窓会が出席者数に応じて負担(別途、会費1人2,000円を徴収)
- 父母の会との交歓会開催…同窓会より9人参加。日時…2月13日(土)12時。会場…三菱養和会「菓鴨スポーツセンター」内。費用…同窓会参加者分を負担(父母の会参加者6人)
- 会議の開催
 - 定期総会…日時…6月20日(土)15時。会場…母校会議室(詳細35頁)
 - 理事会…日時…4月18日(土)15時、1月16日(土)15時。会場…母校会議室
 - 運営委員会…日時…4月18日(土)、

- 5月16日(土)、6月20日(土)、7月18日(土)、9月12日(土)、10月17日(土)、11月21日(土)、12月19日(土)、1月16日(土)、2月20日(土)以上14時。3月20日(土)15時。会場・母校同窓会室並びに会議室
- 第3回「成人の集い」
 〈高校60回生(2008年)平成20年(3月卒業)〉実行委員会(日時・12月19日(土)、2月20日(土)以上13時。会場・母校同窓会室)
- 第5回「成人の集い」
 〈高校62回生(2010年)平成22年(3月卒業)〉実行委員会(日時・3月15日(月)13時。会場・母校会議室)

2009年(平成21年)度収支決算報告書

2009年4月1日～2010年3月31日

科 目	収 入	科 目	支 出
前年度繰越金	7,296,399	卒業生記念品費	193,000
会 費 (1,212 人)	2,928,460	本郷祭サロン費	240,450
入会金 (2009 年度 314 人)	942,000	本郷祭出展費	11,781
受取利息他	7,082	印刷 (一般)	28,350
第 2 回成人の集い		印刷 (銀友)	1,379,143
(学園側負担金)	286,500	発送費 (銀友)	775,476
第 2 回成人の集い会費	102,000	発送手数料 (銀友)	123,010
同窓会サロン会費	78,000	銀友編集取材費	17,624
雑収入	75,211	通信費 (HP プロバイダ)	44,100
		通信費 (一般)	41,197
		名簿管理保守費	255,276
		事務消耗品費	46,064
		振り込み手数料	34,540
		对学校交流費	109,933
		運営委員会交通費補助	123,000
		第 2 回成人の集い	651,967
		第 3 回成人の集い	68,985
		同期会活性化	0
		予備費	715,000
収入合計	4,419,253	支出合計	4,858,896
		次年度繰越金	6,856,756
合 計	11,715,652	合 計	11,715,652

預貯金・現金明細

銀行・他	預貯金残高	定期預金	次期繰越金
三菱東京 UFJ 銀行	1,619,068	5,000,000	
郵貯銀行	215,683		
現金	22,005		
合 計	1,856,756	5,000,000	6,856,756

2009年(平成21年)度表彰記録

クラブ活動など各分野における全国規模の大会等での活躍に対し以下の19件95人の生徒を表彰。

1. 第18回「全国高等学校漫画選手権大会～まんが甲子園～」出場:山口暖志朗、村岡佑輔、尾上明広、夔川祥一、塩田耕己君の5人(予選敗退)
2. 日本経済新聞社主催中学生高校生大学生のための株式学習コンテスト「第9回日経STOCKリーグ」レポートコンテスト中学部門「部門賞」受賞:櫻井幹生、小沢陽、矢吹高明、石井伸亮、石田啓君の5人
3. 平成20年度全日本通信珠算競技大会「個人総合競技高等学校の部」日本一受賞:木塚康太君
4. 日本物理学会主催第5回Jr.セッションにおいて「くし形金属板に生じる渦電流」のテーマで発表し「奨励賞」受賞:志村寛久、福松敬展、渡邊正理君の3人
5. 文部科学大臣杯第5回小・中学校将棋団体戦「東日本大会」出場:山崎拳矢、石野凌、宮路暁久君の3人(ブロック予選1勝2敗敗退)
6. 平成21年度全国高等学校総合体育大会「剣道の部」出場:三橋昂介君(2回戦敗退)
7. 平成21年度全国高等学校総合体育大会「水泳の部」出場:伊藤慶太君(400m個人メドレー4位。200m個人メドレー予選敗退)
8. 第33回全日本高校ボウリング選手権大会出場:齋藤真秀君(139人中32位)
9. 第64回国民体育大会「水泳の部」出場:伊藤慶太君(少年男子A400m個人メドレー3位。少年男子A400m自由形7位。少年男子A800mリレー<東京都チーム>4位)(以上9件21人 2009年9月5日贈呈)
10. 第29回「東日本中学校ラグビーフットボール大会」出場:小谷田宏紀、荻野夏樹、中谷惇、渡邊紘也、松尾海生、堀倫徳、大矢知亮、古賀田健太、齋藤怜央、鳥巢泰毅、佐藤史也、若林稜大、藤森良太、高比良直樹、田沼遼、宮本真実、長谷部貴一、安福壮紀、越智英、佐々木健太、高橋学、田村康平、西田一希、吉田満慎吾、若浦優斗君の25人(2回戦敗退)(2009年11月6日贈呈)
11. 東京情報大学「第2回高校生ソフトウェアコンテスト」プログラミング部門「優秀賞」受賞:櫻井勇輝君
12. 株式会社野村総合研究所「NRI学生小論文コンテスト2009」高校生部の部「優秀賞」受賞:田中康彬君(以上2件2人 2009年11月21日贈呈)
13. 平成21年度全国高等学校総合体育大会「フィギュア競技シングルスケート」出場:磯崎大介君(総合12位)(2009年12月19日贈呈)
14. 國學院大学主催第13回「高校生創作コンテスト」短編小説部門で菊池崇之君の「数字のラブレター」が最優秀賞受賞(2010年1月8日贈呈)
15. 松下政経塾主催第5回「中学生・高校生立志論文コンテスト」高校生部の部で成田龍一朗君の「我、現代の志士となることをここに誓う」が特別賞受賞
16. 平成21年度全国高等学校総合体育大会、第59回全国高等学校スキー大会「クロスカントリー」に出場:津内直人君(予選敗退)小沢陽君(予選敗退)(以上2件3人 2010年2月20日贈呈)
17. 第11回「全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会」に出場:小川翔平、櫻井寛己、白石拓馬、宮腰健吾、尾形勇人、上山知弥、白神洵、吉田貴宏、河合奨、木原健裕、伊藤洋輔、木村直明、高橋仁志、長谷部駿、渡雄樹、田中秀昇、藤井英貴、佐藤耀、武信真二、柚木恵介、中澤翔伍、藤雄亮、内堀寿耶、香中天青、山岡篤樹、黒木勇志朗、篠崎宏洋、泰松遼、武部将司、辻田孝興君の30人(予選リーグ2勝1敗敗退)
18. 日本物理学会主催第六回Jr.セッションにおいて「様々な条件下においての水の冷却」のテーマで発表:<高校>中村諒、児玉真一、櫻井幹生君<中学>後藤雅貴、高田周平、渡邊正理、野村直生君の7人
日本物理学会主催第六回Jr.セッションにおいて「風洞装置を用いた空力翼艇の研究」のテーマで発表し奨励賞受賞:<高校>出頭明旺、田中康彬君<中学>桐野将、渡邊拓磨君の4人(以上2件2010年3月8日贈呈)
19. 平成21年度全日本通信珠算競技大会「高等学校の部」第2位受賞:木塚康太君(2010年3月12日贈呈)

2009年(平成21年)度定期総会報告

齊藤 毅 (高校13回生=昭和36年卒業)

日 時…平成21年6月20日
 会 場…本郷学園本館2階会議室
 出席者…27名

関塚正治副会長(高校20回生=昭和43年卒業)が司会を務め総会の開会を宣言した。

議事に先立ち、山内英夫会長から入試や進学において例年のとおり順調に推移したとの報告があった。また、今年役員改選期になり、この機会に会長と理事の任期を同一にしたい等の発言があり、他の議案と共にご審議いただきたいとの挨拶があった。

来賓の北原福二校長は、昨今、百年に二度の不況といわれているが、本学生徒は百年に二度のことが経験できると前向きな感想を校長に話してくれ、大変うれしく思った、と所感を述べた。また、グラウンドの人工芝化により、保護者からも生徒が明るくなったとの声も寄せられ、ケガが少なくなりスポーツの成績がアップした等、生徒の様子に変化が現れた、との報告があった。さらに文化面でもストックリーグや日本物理学会、エレキフェスタ等を受賞するなど、生徒たちの活躍の様子が紹介された。

引き続き物故者に黙祷をささげる。
 議長を山内会長が務め、議事に入る。

第1号議案 人事案件

議長から、今年役員改選期に当たり「銀友」第38号27ページに示すとおり新役員提案があった。併せて平成19年度卒業(高校59回生)の岡本健太郎、田中大貴、高宮成将の3氏に理事を委嘱したことを報告した。また、会長の任期が理事の任期と1年のずれがあるため、会則を改正して、これを理事の任期と合わせたいとの提案があり、いずれも全会一致で承認した。

第2号議案 平成20年度事業報告

議長から、「銀友」第38号25ページに示すとおり提案があり、秋元幹夫(高校7回生=昭和30年卒業)副会長による成人の集い、本郷祭同窓会サロン設置等の報告を受け、これを全会一致で承認した。

第3号議案 平成20年度決算報告

議長から、「銀友」第38号25ページに示すとおり提案があり、寺田正美(高校24回生=昭和47年卒業)副会長による報告を受け、これを全会一致で承認した。

第4号議案 平成20年度会計監査報告

議長の指名により篠喜三郎監事(高校6回生=昭和29年卒業)が、4月10日(金)に高田隆義監事(高校15回生=昭和38年卒業)とともに行った平成20年度会計の監査について、「会計処理は適切であった」と報告し、これを了承した。

第5号議案 平成21年度事業計画案

議長から、「銀友」第38号26ページに示すとおり提案があり、秋元幹夫副会長の説明を受け、これを全会一致で承認した。

第6号議案 平成21年度予算案

議長から、「銀友」第38号26ページに示すとおり提案があり、寺田正美副会長による説明を受け、これを全会一致で承認した。

第7号議案

各担務事業報告並びに各担務計画案議長の指名によるホームページ管理、同窓会誌「銀友」発行、同窓会活性化対策の各担当者からの報告を受け、これを了承した。

以上、平成21年度総会の全議事が終了し散会した。

2009年(平成21年)度

本郷祭報告

井上栄三郎

(高校10回生 昭和33年卒業)

「GATHER」をテーマに掲げた、本郷学園最大のイベント「本郷祭」がシルバークウィークはじめの9月19日(土)、20日(日)の2日間わたり開催されました。

新型インフルエンザ流行の最中であり、出足が心配されましたが、両日とも秋晴れに恵まれ、早くから大勢の人々が来校してくださいました。巣鴨口の校門を入ると、青々とした人工芝に沿って、各クラブが主催する伝統の本郷市が続いており、入口の近くの焼き鳥はプロ顔負けの美味しさでした。例年行われるスポーツ親善試合がインフルエンザの関係で、中止になったのが残念でした。

それぞれの教室ではクラブやクラスごとに創造性豊かな作品や研究発表が展示発表され、どの会場もお客様で賑わっていました。



我々同窓会も63館2階選抜B教室で展示を行いました。例年のように学園の歴史をはじめ同窓会の資料を展示し、そしてコーヒートと茶菓子を用意し同窓生をお待ちしました。2日目の午後は、談話コーナーの椅子が冷める暇もないほどの盛況ぶりでした。

さらに、写真家の新澤米次氏(高校8回生 昭和31年卒業)と画家の向井史朗氏(高校12回生 昭和35

年卒業)の作品が展示され、展示室に花を添えていただきました。さて、大盛況のうちに本郷祭も終わりに近づき、20日午後は巣鴨の三菱養和会スポーツセンター「レストランパルテール」で、今回で6回目となる同窓会サロンを開催いたしました。サロンも回を重ねることに参加者も増え、今回は78名になりました。特に、高校20回生の方々が、4月に「還暦同期会」を開催したこともあって、大勢参加してくださいました。

同窓会としては、このサロンを同期会やクラス会として利用していただくことを大いに歓迎しております。今年も、さらに多数のOBの方々のご参加をお待ちしております。



本郷学園同窓会役員

(名誉会長、顧問、相談役を含む) 任期は2012年度総会まで

名誉会長

松平 頼武 (理事長)

会長

南谷 修 高校8回 1956(昭和31)年卒

副会長

玉川 昭 中学19回 1945(昭和20)年卒

望月 敏郎 高校3回 1951(昭和26)年卒

秋元 幹夫 高校7回 1955(昭和30)年卒

小室 能広 高校8回 1956(昭和31)年卒

井上栄三郎 高校10回 1958(昭和33)年卒

市倉 洋一 高校12回 1960(昭和35)年卒

斉藤 毅 高校13回 1961(昭和36)年卒

関塚 正治 高校20回 1968(昭和43)年卒

田中 良一 高校24回 1972(昭和47)年卒

監事

篠 喜三郎 高校6回 1954(昭和29)年卒

高田 隆義 高校15回 1963(昭和38)年卒

顧問

北原 福二 (校長)

中村 允 中学13回 1940(昭和15)年卒

山内 英夫 高校3回 1951(昭和26)年卒

相談役

宮本 幸雄 中学15回 1942(昭和17)年卒

植松 隆吉 高校3回 1951(昭和26)年卒

理事

高野 正美 中学17回 1944(昭和19)年卒

岡田 光正 中学18回 1945(昭和20)年卒

前田 和男 中学18回 1945(昭和20)年卒

野木 惣市 中学19回 1945(昭和20)年卒

田島 利男 中学20回 1947(昭和22)年卒

佐治 栄一 高校1回 1949(昭和24)年卒

地曳 秀雄 高校3回 1951(昭和26)年卒

栗原 廣太郎 高校6回 1954(昭和29)年卒

新澤 米次 高校8回 1956(昭和31)年卒

岡本 信也 高校10回 1958(昭和33)年卒

久保 國男 高校12回 1960(昭和35)年卒

熊木 宏治 高校12回 1960(昭和35)年卒

山本 達雄 高校12回 1960(昭和35)年卒

阿出川 信夫 高校13回 1961(昭和36)年卒

杉本 繁 高校13回 1961(昭和36)年卒

池田 雅彦 高校14回 1962(昭和37)年卒

園部 一郎 高校17回 1965(昭和40)年卒

小倉 義雄 高校18回 1966(昭和41)年卒

山際 幸雄 高校18回 1966(昭和41)年卒

梶 徳治 高校20回 1968(昭和43)年卒

蛭田 要司 高校20回 1968(昭和43)年卒

富岡 俊明 高校21回 1969(昭和44)年卒

中田 守善 高校21回 1969(昭和44)年卒

池野 直樹 高校23回 1971(昭和46)年卒

野田 悠二 高校24回 1972(昭和47)年卒

千野 邦雄 高校25回 1973(昭和48)年卒

伊藤 豊 高校26回 1974(昭和49)年卒

立入 健司 高校26回 1974(昭和49)年卒

平野 隆之 高校26回 1974(昭和49)年卒

佐藤 修一 高校31回 1979(昭和54)年卒

遠藤 千秋 高校33回 1981(昭和56)年卒

山本 一博 高校34回 1982(昭和57)年卒

野口 貴洋 高校35回 1983(昭和58)年卒

佐藤 和明 高校39回 1987(昭和62)年卒

移川 真男 高校42回 1990(平成2)年卒

下村 大樹 高校45回 1993(平成5)年卒

野村 竜太 高校46回 1994(平成6)年卒

金尾 晋一郎 高校58回 2006(平成18)年卒

黒部 直樹 高校58回 2006(平成18)年卒

御子柴 怜志 高校58回 2006(平成18)年卒

岡本 健太郎 高校59回 2007(平成19)年卒

高宮 成将 高校59回 2007(平成19)年卒

田中 大貴 高校59回 2007(平成19)年卒

石田 武 高校60回 2008(平成20)年卒

塩野 智也 高校60回 2008(平成20)年卒

西村 友吾 高校60回 2008(平成20)年卒

吾郷 友紀 高校62回 2010(平成22)年卒

山田 駿 高校62回 2010(平成22)年卒

若林 司 高校62回 2010(平成22)年卒

学園だより

本郷高校 2010年(平成22年)大学入試合格実績

大学名	現役	浪人	計
国公立			
東京	2	1	3
京都	1	3	4
一橋	5		5
東京工業	7		7
北海道	4	1	5
東北	1	1	2
大阪	2		2
筑波	4	1	5
千葉	8	2	10
埼玉	2		2
東京外国語	1		1
東京農工	3	1	4
東京芸術		1	1
東京医科歯科	1		1
電気通信	3	1	4
首都大東京	4	1	5
横浜国立	8	1	9
横浜市立		1	1
東京海洋	1		1
神戸		1	1
広島		2	2
長崎		1	1
茨城		1	1
宇都宮	1		1
群馬	1		1
浜松医科		1	1
岐阜		1	1
大分		1	1
福井	1		1
防衛	1	1	2
防衛医科	1		1

大学名	現役	浪人	計
私立			
早稲田	83	28	111
慶応義塾	47	12	59
上智	37	4	41
東京理科	98	12	110
明治	75	26	101
青山学院	16	11	27
立教	20	13	33
中央	36	16	52
法政	23	11	34
学習院	12	8	20
成蹊	3	5	8
成城		2	2
明治学院	6	4	10
日本	38	29	67
専修	9	2	11
東洋	9	3	12
駒澤	9	1	10
獨協	6		6
國學院	5	4	9
武蔵	2	2	4
神奈川	6		6
玉川	3		3
東海	13	4	17
亜細亜		1	1
帝京	6	2	8
国士館		3	3
拓殖	2		2
東京経済		1	1
国際基督教	1		1
東京都市		4	4
芝浦工業	44	9	53
麻布		2	2
神奈川工科	1		1
関西		3	3
関西学院		1	1
北里	6	7	13

大学名	現役	浪人	計
私立			
杏林	2		2
工学院	7	1	8
埼玉医科	1	1	2
順天堂	1	2	3
城西	4		4
城西国際	1		1
昭和	3	3	6
聖マリアンナ医科	3	2	5
創価	1	2	3
大正	1	2	3
千葉工業	1	2	3
帝京平成	1		1
東京工科	3		3
東京工芸		1	1
東京歯科	1	2	3
東京電機	7	2	9
東京農業	10	3	13
東京薬科	1		1
同志社		4	4
東邦	7	1	8
獨協医科	1		1
日本医科	2	2	4
日本歯科		1	1
日本獣医生命科学		2	2
星薬科	5	1	6
武蔵野	1	1	2
武蔵野美術		2	2
明海		1	1
明治薬科	2	2	4
立正	1		1
立命館		2	2
立命館アジア太平洋		1	1
岩手医科	1	2	3
愛知医科		1	1
酪農学園		5	5

本郷学園同窓会会費納入者一覽

中3回2 野本三千雄・青柳志郎

中5回2 石井千里・高山三郎

中6回2 佐原雄次郎・堀江勇治

中7回1 林繁之

中8回6 谷崎丈夫・長嶺金次郎・鈴木貞夫・石坂岩雄・稻木實

中9回2 有賀活郎

中10回6 大塚信男・久住進一・後藤恒久・小泉進・田口赫郎・中川時重

中11回8 上田義雄・中野武正・山岸勝美・水谷郁夫・市川雄一・篠房蔵・高橋耕一・塚田芳雄

中12回10 坂口甫・小松昭・吉田正吾・山田英彌・後藤嘉徳・釵持行雄・上村和夫・河北展生・石原豊英・吉田三男

中13回14 石川正達・橋正道・山口一弘・村上忠之・中村允・永田三郎・寺門務・小森為郎・黒鳥四朗・阿部敏一郎・太田恭二・景山正隆

中14回7

石原清助・鈴木和男
多賀一郎・森本三郎・藤井稔・鈴木一郎・尾立維久・奥田富雄・堀江伸美

中15回15

勝敏二・根本卓光・山口富三・宮本幸雄・畑定・萩原友郎・吉田正・野村秀二・中村美登・土屋健人・栗原重雄・太田年三・荻原久雄・阿部敏秋・竹中節男

中16回15

菊地宏・高橋璋守・鶴見俊一・樋代幸雄・野尻利祐・中野博・永田了・田中凡夫・小永井暹・木村康夫・木村宮造・白井明・加瀬量次・白井康三・大沢欽一

中17回25

蕨清平・田中稔・田中裕一・立山文男・千葉孝男・土屋二郎・保坂忠夫・水田裕昭・田中章治・和氣修・寺口有喜公・山口登・乙部邦壽・松谷正・高野正美・阿出川昭治

中18回49

秋田禮一・小川清・小倉高規・齊田眞一・大村雅通・尾前広・佐藤元徳・下村多氣夫・按田仁三郎

宮田昭平・渡部豊一・山田卓治・松元崇・松廣翠・前田和男・松田裕・檜垣順次・鳥飼義二・榎本輯次・後藤良一・栗山春雄・北堀幸雄・北村廣三郎・菊地熙夫・笠原栄治・加藤宣夫・大沢善和・佐々木一昭・岡田光正・今里隆・宇田川孝一・石田順嗣・磯川清和・新井保文・新井義雄・安達正治・服部定善・友安昭治・大原功・野本昭夫・青戸将・佐藤明夫・仲摩邦夫・中山正・中山守次・西野重義・愛利三・豊崎益夫・長谷川忠也・杉原繁夫・高橋操六・高橋三郎・高橋一夫・妹尾尚・鈴木卓三・菅野英夫・高桑益行・清水正美・島田公雄

中19回32

浅原義久・板倉一典・岡田貢一・桶川芳雄・大久保武司・貝塚明雄・新井忠彦・大野勝弘・太田健三・阿出川義男・渡辺信夫・柏原英一・山崎達司・森正徳

永井四郎・横田文男・

築尚・山本巖・

室久敏三郎・保谷六郎・

長谷川広司・増田速水・

西村努・菊田勇・

竹本三男・高橋昭彌・

高橋實・高三郎・玉川昭・

鈴木孝一・重永政夫・

下川敬朗・野木惣市・

船橋隆馬・藤林晃・

皆川敬次・山下保次・

伊澤芳雄・市川保・

藤原利彦・鈴木三好・

久永幸隆・鈴木健之・

菊入喜三郎・市川恒雄・

羽山健児・中島敬太郎・

土肥隆・田島利男・

久保政義・金澤一朗・

大塚康夫・大屋忠・

橋本公成・鶴岡俊雄・

二宮重恒・白岩幸雄・

根本幹弘・古門敏郎・

古澤秀信・藤田進・

星野昌弘・横澤邦彦・

中林商蔵・田中昭二・

田中一好・田村義雄・

小林國雄・大矢和夫・

大下晃・板倉厚・

市橋光雄・阿知波健・

高原隆雄・外内悦雄・

須田光夫・宮入貞雄・

福沢昇・高田政雄・

井筒千秋・野々村長三・

堀井幸次郎・佐治栄一・

相川厚・

高1回3

中22回6

中21回20

中20回22

高2回12

高3回26

高6回41

高5回10

高4回5

西島成一・櫻井泰・

小林明・廣瀬六郎・

浜野清隆・羽生銈佑・

坂野重一・木村敏夫・

中村嘉宏・清水真太郎・

山内英夫・長崎一・

根本強・野口多喜男・

平子浅雄・前田善男・

渡辺五郎・望月敏郎・

石塚豊・中島正次郎・

山口洋司・植松隆吉・

遠藤巨良・石川達夫・

地曳秀雄・奥平博一・

大野淳夫・北見尹・

志野原三津夫・小浜卓司・

小平光郎・佐々木三郎・

齊藤邦衛・坂田実・

西江峰夫・八嶋政臣・

渡辺武男・佐々木直剛・

廣瀬澄・

谷川洋明・影山弘・

宮坂貢司・山崎利恭・

片桐幸一郎・梶野伸二・

前田武彦・市村近・

井沢清・島崎雄司・

仙波忠志・中里盛次・

中村義一・中山寿夫・

津久田愛之助・谷澤文雄・

根立光夫・高橋民次郎・

松本幸司・高木桂三・

蓮沼徹・関根修雄・

松本易夫・前田明男・

三谷哲男・渡辺昭義・

香森哲也・高橋利彰・

市川錦次郎・松ヶ谷利康・

久保田義喜・関貞三・

渡辺勝・稲垣泰輔・

飯泉喜也・漆間秀雄・

内田孝二・奥村茂・

伊藤洋之助・柏村喜徳郎・

栗原廣太郎・蔵田尚・

駒井隆行・後藤順夫・

小林金則・小林秀行・

佐治義雄・篠喜三郎・

霜越一・鈴木惣一郎・

小椋一・

高橋三郎・島崎幸人・

上岡延好・井原信夫・

清水秀男・秋元幹夫・

青木輝男・秋元幹夫・

清水秀男・益川雄治・

渡邊衛・長澤秀幸・

深澤宏之・藤巻健三・

南谷修・吉田光男・

小室能広・渡邊茂明・

綿貫正壽・山本賢一・

新澤米次・木塚順夫・

金子隆一・角能良宣・

尾島圭亮・大野俊広・

小野寺博・小幡昌久・

稲葉研治・勅使河原宏記・

島村泰夫・芥川定義・

比企正憲・西江正晴・

田中好明・小林常甫・

田辺博昭・江原森太郎・

佐藤哲夫・

横澤慶治・山崎尚・

渡部長幸・山崎昇・

高10回19

高9回9

高8回20

高7回10

高15回8	高14回2	高13回14	高12回28	高11回3	高18回15	高17回9	高16回3	高19回13	高20回37	高26回16	高25回15	高24回10	高23回5	高22回8	高21回15		
杉山雅一・新英雄・	高田隆義・峯岸桂介・森坂展行・時田稔二・	明石安邦・齋藤毅・渡辺則綱・野間口正機・中村久・杉本繁・	深沢素夫・長谷川修・中村宣由・中田和男・西野保博・中川幸平・松井義次郎・向井史朗・安形充哉・山本達雄・吉原孝哉・辻忠直・熊木宏治・矢作博明・小田川敏孝・高橋徹・	太田善夫・石和田永俊・小池弘祐・	瀬尾実・板倉日出男・村井文一・宮沢正喜・根木輝久・田原克人・丹波信三郎・重野光男・神原康夫・小松良栄・輕部文雄・小倉義雄・山路幸雄・坂田周二・大路悟・	林俊輝・中村憲夫・塚越啓雄・佐藤仁・小野寺良雄・池田明・辻内健志・	上島敏幸・小原治男・田村邦光・	長谷川実・北原照久・吉倉幸信・吉川昭二・毛利悦一・増山恵一・中村博・下川薫・金子敏雄・石原崇光・秋葉和秀・有馬壮一郎・沼尻卓・	戸張友晴・古畠英俊・平塚孝・蛭田要司・町田準一・中野正博・森田知男・津田隆・西原薫・村中修・森壽久・伊勢谷信幸・石田和明・菅原政広・関塚正治・小菅邦雄・梶徳治・吉田健・須賀一夫・我妻光久・内山正敏・太田正明・大野英治・	稲田俊和・平野隆之・	千野邦雄・吉田徳義・吉田健一・山口登・目黒英之・吉波行男・中田宗喜・坂井成一・佐野養・栗山孝治・清田健蔵・井口茂雄・阿部益美・田島秀行・長谷川幸雄・	日高詳介・峯岸孝次・松島和己・野田悠二・中村敬司・寺田正美・田中良一・掛川敏行・関田晃・前川定男・	池野直樹・飛田茂・田中功・鹿島茂夫・太田治・	大患淑行・若杉清和・田村修三・瀬賀春雄・鈴木正治・加納耕助・遠藤達哉・木下寛明・	北角讓司・木島勝美・塩原一男・中島芳夫・大塚昇・新発田和敏・工藤一郎・酒井孝一・酒井完治・櫻井康二・齋藤盛泰・小林基展・	豊田康徳・小松謙介・山口陽通・森田謙雄・早川盛男・西正規・中田守喜・矢沢秀治・中田守喜・杉山利博・鈴木齐・杉山利博・砂田俊雄・菊地正美・荒井章登・月居潤・	杉山敏行・

高33回18	高32回5	高31回8	高30回2	高29回9	高28回10	高27回6			
奥田十善・遠藤千秋・吉田浩久・小口邦夫・吉田秀樹・瀧本学・並木成中・中野一美・西川和利・西洋一・高橋秀明・福島浩・石原剛次	永堀義秀・三友宏樹・齋藤政嗣・小池治	山畑邦裕・幸田耕二郎・荒谷繁明・石坪英貴・吉田法夫・富永浩伸	宮本茂治・川崎雅弘・厩溪文有・中村貢司・山畑邦裕	飯泉彰裕・渡辺嘉伸・丹野修辞・菅野弘一・小林幹生・石塚実・磯ヶ谷満夫・伊東史郎・島幸男	山本和弘・須藤博忠・井口隆・加藤好男・田中美・菅原義則・小林博貴・黒沢邦夫	高橋伸治・原田俊幸・佐藤吉伸・鈴木利一・安部昌治・河野哲史	堀義一・松平善明	溝口清人・笹沼博之	伊藤豊・伊藤正彦
高38回10	高37回15	高36回16	高35回13	高34回5					
高木淳・飯塚真啓	土田賢一	萩谷功・田中正二・川端下徳之・西廣宗彦・山田晴一・下鳥豊・加藤吉裕・清水克己・古賀光裕・直井正人	井田七海・野口貴洋・增岡武宏・戸張元・佐々木一宏・小池武次・染谷敏昭・茂呂孝元・天野雅之・平野治・藤本由紀夫・生野友美・本莊恭一	野中武司・渡辺欣也・矢島義浩・日高裕明・宮崎雄一	齋藤卓・戸谷庸克	岩田実・磯田浩之・天沼嘉章・青木和夫	岩田実・磯田浩之・天沼嘉章・青木和夫	齋藤卓・戸谷庸克	野中武司・渡辺欣也・矢島義浩・日高裕明・宮崎雄一
高45回8	高44回7	高43回14	高42回15	高41回14	高40回6	高39回8			
中山秀一・近藤正徳	中村雅知	田村裕一	藤田恵輔・水野哲行・藤井亨・高山慎	紙谷淳一・岡田博・小林孝安・小松直人	服部晋一・田畑準・福田亮一・橋拓朗	伊達晋介・堀溝信幸・田畑亨・佐藤和明・清水伸樹・寺山義泰	矢嶋実・青木努	伊達晋介・堀溝信幸	服部晋一・田畑準・福田亮一・橋拓朗
	山本貴之・久保村豊	有澤知彦・花田憲彦	大澤清・塩家吹雪・小長谷賢治・齋川俊行	長田祐司・梅田昌之	日枝広道・重川孝志	伊達晋介・堀溝信幸	矢嶋実・青木努	伊達晋介・堀溝信幸	服部晋一・田畑準・福田亮一・橋拓朗
	浅野裕之・北村彰浩	西平敦郎・今井仁	藤田恵輔・水野哲行	飛彈亮人・川島雅之	林慎也・鈴木理	伊達晋介・堀溝信幸	矢嶋実・青木努	伊達晋介・堀溝信幸	服部晋一・田畑準・福田亮一・橋拓朗
	津田達広・藤田啓	中村步希・佐藤修一	藤田恵輔・水野哲行	井上貴行・高瀬知博	林慎也・鈴木理	伊達晋介・堀溝信幸	矢嶋実・青木努	伊達晋介・堀溝信幸	服部晋一・田畑準・福田亮一・橋拓朗
	中野一美	吉田永弘・針谷寿紀	藤田恵輔・水野哲行	長田祐司・梅田昌之	林慎也・鈴木理	伊達晋介・堀溝信幸	矢嶋実・青木努	伊達晋介・堀溝信幸	服部晋一・田畑準・福田亮一・橋拓朗
	中野一美	中田一郎・伊塚太一	藤田恵輔・水野哲行	長田祐司・梅田昌之	林慎也・鈴木理	伊達晋介・堀溝信幸	矢嶋実・青木努	伊達晋介・堀溝信幸	服部晋一・田畑準・福田亮一・橋拓朗
	中野一美	松本祐一・伊藤正規	藤田恵輔・水野哲行	長田祐司・梅田昌之	林慎也・鈴木理	伊達晋介・堀溝信幸	矢嶋実・青木努	伊達晋介・堀溝信幸	服部晋一・田畑準・福田亮一・橋拓朗
	中野一美	若松大介・坂巻健司	藤田恵輔・水野哲行	長田祐司・梅田昌之	林慎也・鈴木理	伊達晋介・堀溝信幸	矢嶋実・青木努	伊達晋介・堀溝信幸	服部晋一・田畑準・福田亮一・橋拓朗
	中野一美	萩原孝明・上原弘行	藤田恵輔・水野哲行	長田祐司・梅田昌之	林慎也・鈴木理	伊達晋介・堀溝信幸	矢嶋実・青木努	伊達晋介・堀溝信幸	服部晋一・田畑準・福田亮一・橋拓朗
	中野一美	萩原孝明・上原弘行	藤田恵輔・水野哲行	長田祐司・梅田昌之	林慎也・鈴木理	伊達晋介・堀溝信幸	矢嶋実・青木努	伊達晋介・堀溝信幸	服部晋一・田畑準・福田亮一・橋拓朗

高46回9

赤田正樹・斉田拓也・中野隆之・中島信之・青木和久・田代憲太郎
岡崎進一・小林永芳・渡邊信貴・金子隆・松村浩司・増田淳・鈴木健一・北澤卓弥・山田洋一

高47回9

北原宏晃・神保忠臣・佐藤良・清水大地・香取範充・柳瀬崇博・大森慎太郎・青江覺峰・斉藤伸之

高48回6

稻生雄一郎・増田健次・德永理利・山中弘毅・中村織雄・橋本直人

高49回10

林誠吾・山田元文・近藤大介・中溝健晴・安井督・増田望・堀洋平・天池泰仁・町田健・上野光信

高51回17

竹上大介・宮崎竹馬・新村光央・清水貴寛・宇田川太・石塚真之・島村有希・乾嘉宏
中澤利幸・若西良介・皆川裕司・古島剛・染谷快典・乙丸貴史・橋爪雄志・行木達朗・梶野貴経・天野秀忠・堀越亮・秋田真孝・滝澤一晴・西岡新平・福田哲也・新井亮輔・中田孝宏

高52回15

千田昌宏・長谷川圭吾・猪越正直・赤松篤・坂田憲和・坂本泰宏・馬渡千高・向井崇平・藤本耕平・塩畑太一・長谷川智洋・高橋智久・関澤泰明・益戸将吾・衛藤望

高53回21

橋剛毅・日谷亮・北島康介・内原嘉昭・後藤泰治・深山敬大・小藤寛之・佐藤達哉・中村旭・香積知明・藤田豊・高辻紘之・小島将敬・今井秀星・吉田朋大・栗山孝幸・中井秀昌・福森洋輔・奥山雄太・齊藤秀雄・大塚憲

高54回28

小泉信吾・森祐真・正木健彦・土橋篤仁・北條弘明・堀越周・水谷圭一・田中真人・小泉孝人・伊藤亮・上加世田暁・堀江翔一・北村徳宏・戸澤信太郎・石澤慧・白土峰大・栗野耕平・小谷泰介・高橋祐磨・大澤思朗・千葉禎太郎・大森秀昭・彦坂祐介・横山佳之・渡辺俊介・鶴木学・江間裕樹・高田誠

高55回24

朽名正道・深水雅生・八木東吾・上森理弘・塚田匡・小鮎慎也

高56回24

坂本直國・小川堅太郎・早川祥吾・金子駿太・秦武弘・新村佳央・國安徹・佐藤裕明・金子優太・池田一輝・鶴巻元康・仲島裕皓・加藤誉幸・山崎晃一・山下勇仁・大河内伸剛・川那辺翔・香川景睦
中田義元・卯坂潤一郎・江利川亮・後藤隆徳・澤山卓也・長谷川裕之・福岡幸伸・木内健義・細谷孝伸・山本崇史・小池篤史・山本真樹・富塚賢太郎・小高真樹・斎藤雅也・高井俊宏・菊池友吾・稻垣雄介・河野謙司・船渡川哲・松田将吾・川田大助・菅原一輝・白坂健太

高57回20

北森雅雄・安藤裕哉・石田遼太郎・砂川大茂・石村賢・河村佳介・進野裕規・畑佑樹・新井孝明・藤澤慶・鶴岡亮人・小串聡彦・藤田盛吾・小林敵・坊野亮平・内田征平・藻利大地・吉田峻洋・谷口遼・溝辺基

高58回33

高橋伊郎・黒田健斗・横山広樹・多田邦生・吉川直佑・梅田翔太・宮沢祐太・桑原研人・岩本健史・高橋栄之

高59回42

加藤尊・新井晶・土屋厚人・仲島孔明・益田晃太・小笠貴嗣・池田一樹・中野裕介・木下和俊・石上将大・上久保一輝・伊田和平・松島和人・淡路正志・西原正浩・並木幹夫・秋本悠樹・上田圭介・江刺利彦・田中義輝・木村匠吾・岩澤祐輝・金尾晋一郎

高60回62

宇山宗孝・植田高啓・南洋佑・荒井崇聡・渡邊允・柳原孝吉・橋岡佑樹・篠原利典・庄司賀範・林輪太郎・高崎義広・山口達也・長田勝也・吉貫大祐・竹村聡志・武井良祐・春山輝巨・大野隆一・鈴木雄介・村川東・鷺澤仁志・関根大介・西野晃司・宇田川翔平・森山祐樹・池田哲之輔・金屋春樹・日下陽平・小泉隼人・古賀大智・野中裕太郎・山下雄大・田中大貴・水谷大志・木甲斐智明・佐藤智哉・森井康博・村山智・福島寛之・鈴木啓介・大野太郎・山本勝章

高61回81

坂井佳祐・泉圭一・中村聡志・鳥居暁・戸澤圭太・徳山天之丸山央貴・箱山智之・正木直哉・山幡琢也・横山豪・大和久淳・熊谷智大・関野雅弘・千賀秀平・伊藤光平・須賀政旭・佐々木佑輔・峯岸賢史・虎井祐介・山本陸・黒田直生人・宮崎聡樹・加藤明裕・伊田幸平・高井謙吾・小野雄真・稻生諫吾・可児大嗣・由利卓哉・矢吹卓大・福田修也・豊原貴俊・清水雄太・大築一矢・吉田成輝・島大樹・渡邊康平・森崎将輝・小池康介・眞坂裕之・佐藤智・工藤雄太郎・石井洋志・吉田玲生・津田聡・今井克樹・澁江佳樹・星野慎太郎・浅野泰寛・渡邊康太・小林英資・小松佑輝・関根佑貴・本間岳・洲上翔志・岩崎裕幸・新見拓馬・加藤彰・大倉智裕・粕内徹・中田匠哉・花村駿・中道惇也・高泰仁・陣場成行・岸本慧・川野雄平・大野誠・伊藤瑞希・元田圭・高松弘樹・岡野晴行・前波知輝

志田龍太郎・金子修・大竹正紘・大駿一・工藤貴文・日下知紘・安部偉織・渡邊貴輝・北村宗司・村田貴輝・与那嶺智・春山範光・橋本将一・西田直紀・木中慎也・志村暢紀・坪内貴史・日置法男・阿部篤・柳瀬和也・金濱恵彦・宇津木純一・植野寛人・飯田浩人・浅野文章・山崎清隆・田村裕幸・林建人・柳田真之介・佐野太一・近藤明彦・近藤拓哉・岩田宗輔・北澤克己・岩田卓也・岩瀬良平・間々下義広・益子将太郎・福田圭祐・安田直大馬・町田修・野本賢・竹本雅純・高木智彬・小田奎・小倉亮・上田進也・本田哲司・山田大景・横井航平・花村大樹・徳成優作・築山周・高橋良平・河内達也・大久保雄斗・小穴泰裕・渡辺雄太・米川泰輔

※万全を期したつもりですが、万が一、お名前の漏れや誤字、脱字などの間違いがありましたらご容赦ください。FAXでこー報いただければ幸甚です。FAX03139170007

訃報

謹んでご冥福をお祈り致します
同窓会にご連絡のあった方のみ掲載しております

中3回 芝木 健男	中16回 近澤 勝利
中3回 野本 三千雄	中16回 羽根 孝太郎
中4回 高柳 東太	中16回 原 栄蔵
中5回 広瀬 武次	中17回 千葉 孝男
中8回 稲木 實	中17回 塚本 直人
中8回 竹田 亨	中17回 野瀬田 朋生
中9回 吉成 久志	中17回 吉岡 寛
中10回 伊藤 龍昭	中18回 中山 守次
中10回 中川 時重	中21回 林 惟浩
中12回 内田 進	中21回 三輪 喜久雄
中12回 小田 常次郎	高7回 桂 孝雄
中12回 小路 作衛	高7回 島崎 幸人
中12回 和気 秀夫	高7回 豊嶋 宏
中13回 鈴木 直利	高7回 矢田 明二
中14回 小川 一郎	高8回 海老原 博
中14回 大塚 和彦	高8回 佐藤 清
中14回 斎藤 薫治	高8回 戸澤 儀作
中14回 高野 睦	高9回 佐藤 哲実
中15回 島田 克敏	高18回 小野 健司
中15回 畑 定	高19回 山谷 潔
中15回 松本 八郎	高28回 関 正雄
中15回 宮崎 万寿	高35回 天野 雅之
中15回 渡辺 好夫	高45回 土生 健二

編集後記

- 「校友を訪ねて」のインタビューを担当していただいた3人の若い後輩たち。雷門の前で落ち合うことにしていましたが、なかなか見つけることができません。逆に声をかけられてしまいました。それもそのはず。いま流の若者ルックを想像して見まわしていましたが、金龍をバックにした写真(7頁)のように、なんと、3人ともスーツにネクタイとリクルートスタイルで登場したのです。相談して決めたのでしょうか。“ケジメ”のつけ方を身につけた学園生活と家庭の“シツケ”に思いをはせた次第です。
- 原稿を寄せてくださった菊入氏は肋骨7本を切除。また、屋久島の福原氏は胃を全部摘出しているそうです。それでも

両氏は大病を克服し、とかく話題となっている“居場所”をしっかり定め、かくしゃくと生活されています。電話とメールのやり取りだけでお会いしていませんが、お声を聞く限りでは本当にお元気そうです。たのもしいですね。

- 昨年度から同窓会では、各分野で活躍する生徒諸君を表彰することにしました。初年度では19件95人にもなりましたが、そのジャンルの多さに驚かされました。34頁をご一読ください。意欲的な学園生たちの姿勢に敬意を表するとともに、ご指導にあたられる先生方に感謝いたします。大学受験で実績を示し、実力校としての評価を高める昨今の母校です。しかし、それだけではありませんね。

ホームページ

ホームページ掲示板のご利用には下記のIDとパスワードを使ってください
【会員サイト】 user ID : hongo パスワード : 20100531



本郷祭(学園文化祭)を同窓生交流の場に

— 9月25日(土)、26日(日) —

《同期会やクラス会、OB会などの集合場所にご利用ください》

同窓会展示室開設(当日のプログラムでご案内します)



同窓会懇親会(サロン)開催

日時:9月26日13:00~16:00

会場:三菱養和会巣鴨スポーツセンター「レストランバルテール」

会費:1,000円

*展示教室で利用券を受け取りご参集ください